

**第6次総合計画・第2期総合戦略
策定のためのアンケート調査**

報告書

令和元年8月

館林市

目 次

I	市民アンケート調査結果	
1	調査概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	2
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	2
(2)	標本誤差（信頼性）について	2
3	回答者の属性	4
(1)	性別	4
(2)	年齢	4
(3)	職業	4
(4)	就学先・勤務先	5
(5)	居住年数	5
(6)	居住地	5
4	愛着度・定住意向について	6
(1)	まちへの愛着度について	6
(2)	今後の定住意向について	8
(3)	館林市に不足しているもの	10
5	市政に対する現状評価と今後の期待について	15
(1)	市の各分野に関する満足度	15
(2)	今後の重要度	17
(3)	点数化による分析	19
(4)	今後のまちづくりの方向性	39
6	協働のまちづくりについて	43
(1)	自助・共助の重要性・関わり方について	43
①	自助	43
②	共助	46
(2)	まちづくりを推進する上で重要なこと	48
(3)	まちづくり活動への参加状況と今後の参加意向	49
(4)	地域が主体となって取り組む活動	55
(5)	地域の活動を活発にするために必要なこと	57
(6)	まちづくりを進めていく上での要望・意見	58
II	中学生アンケート調査結果	
1	調査概要	59
(1)	調査目的	59
(2)	調査方法	59
(3)	有効回収数	59
2	回答者の属性	60
(1)	性別	60
3	館林市のイメージ	61
(1)	イメージ評価	61
(2)	点数化による分析	63
4	愛着度・定住意向について	65
(1)	まちへの愛着度について	65
(2)	今後の定住意向について	67

（３）住みたい理由 -----	69
（４）住みたくない理由 -----	71
（５）館林市で自慢できるもの -----	73
5 今後のまちづくりについて -----	74
（１）今後のまちづくりについて -----	74
（２）まちづくりに関する行政への要望や意見 -----	77
（３）まちづくりを進めていくうえで自分や市民ができること -----	78
全体のまとめについて -----	79
（１）市民アンケートのまとめ -----	79
（２）中学生アンケートのまとめ -----	79
（３）むすびにあたって -----	79

I 市民アンケート調査結果

1 調査概要

(1) 調査目的

館林市総合計画を検証・見直しするにあたり、市民の意識を調査するために、18歳以上の市民を対象に、まちづくりの満足度・重要度や館林市の将来像のイメージを把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査方法

調査の対象	館林市に居住する18歳以上の男女
標本数	1,500
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）
調査時期	令和元年5月～6月

(3) 配布数及び回収結果

配布数	1,500
有効回収数	715
有効回収率	47.7%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。従って、文章の数値がグラフの数値と一致しない場合があります。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③複数回答の質問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、従って、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④文中、グラフ中の選択肢の文言は、一部簡略化して表現することがあります。

(2) 標本誤差(信頼性)について

統計調査のなかで、調べたい対象全体を調べる(悉皆調査)のではなく、標本すなわち調査対象である世帯や個人、施設などを一部抽出・選定して実施される調査を**標本調査**といいます。この標本調査では、調査した対象が、全体とは必ずしも一致しないことに起因する**標本誤差**というものが存在します。すなわち、標本調査の結果として統計表などに示されている結果数値は、この標本誤差を含んだものとして見る必要があります。

標準誤差は、無作為標本調査による**推計結果値が真の値からどのくらい離れているか**の幅を示す数値です。

無作為抽出により実施した標本調査では、推計値の前後にそれぞれ標準誤差の2倍の値をとると、真の値は約95パーセントの確率でこの幅の中にあるといえるという性質があります。

誤差の大きさは、抽出の方法(無作為抽出の方法という意味)や調査対象とした集団の性質など、様々な要因により影響を受けますが、最も関連性を持つのが「**標本数の大きさ**」、すなわち、調査の客体としたサンプル数です。例えば、同一の調査、同一の項目においては、サンプル数が多い程標準誤差は小さくなり、逆に、サンプル数が少ない程標準誤差は大きくなります。

一般的には、標本誤差を小さくするようにしたほうが、推計値の精度が上がることから、標本誤差の観点からは、サンプル数を増やして調査を行うほうが望ましいこととなりますが、サンプル数が増加すると調査の手間や経費などが増加するため、むやみにサンプル数を増やすわけにはいきません。

従って、サンプル数の決定は、誤差の大きさとコストなどとの兼ね合いということになります。その標本調査の推計値の標本誤差をどの程度におさめて、サンプル数をいくつにするかというのが、標本調査の企画における重要な部分になりますが、これを「**標本設計**」と呼んでいます。国が実施している調査では、見たい項目についての誤差の程度、標準誤差率を**5パーセント程度**におさめるようにする設計が行われているのが多くなっています。

標本誤差は下記の式で得られ、①比率算出の基数（n）、②回答の比率（p）によって誤差幅が異なります。

$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$	<p>N = 母数集団（館林市の18歳以上人口）</p> <p>n = 比率算出の基数（回答者数）</p> <p>p = 測定値</p>
--	--

そこで、令和元年6月に行った館林市の市民アンケートの母数集団（選挙人名簿登録者数 令和元年6月3日現在）62,986、サンプル数1,500、有効回答者数715、回収率は47.7%であり、これを上式にあてはめての標本誤差について計算すると、

測定値 (%)	信頼区間の1/2幅 (%)
50	2.6
45・55	2.5
40・60	2.5
35・65	2.4
30・70	2.3
25・75	2.2
20・80	2.0
15・85	1.8
10・90	1.5
5・95	1.1

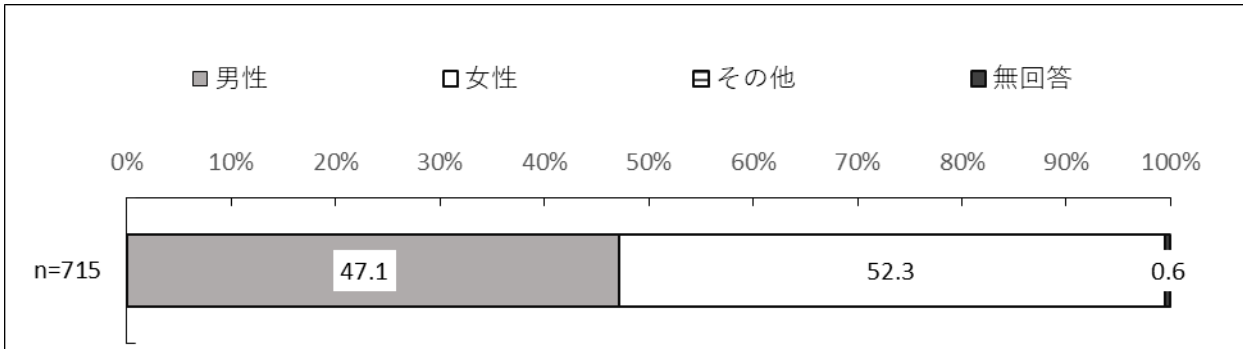
となり、すべての区間において誤差率は3パーセント以内に納まっています。

この表の使い方は、ある設問に対しての回答が50%であったとすると、測定値50%の1/2幅は2.6%ですから、同じアンケートを対象者全数に行っても、47.4～52.6%の間で回答が得られると示しています。

3 回答者の属性

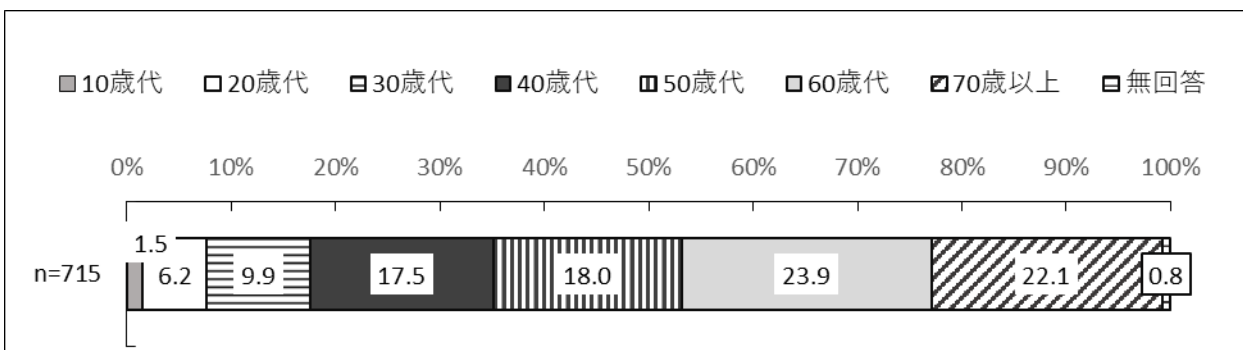
(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が47.1%、「女性」が52.3%となっています。



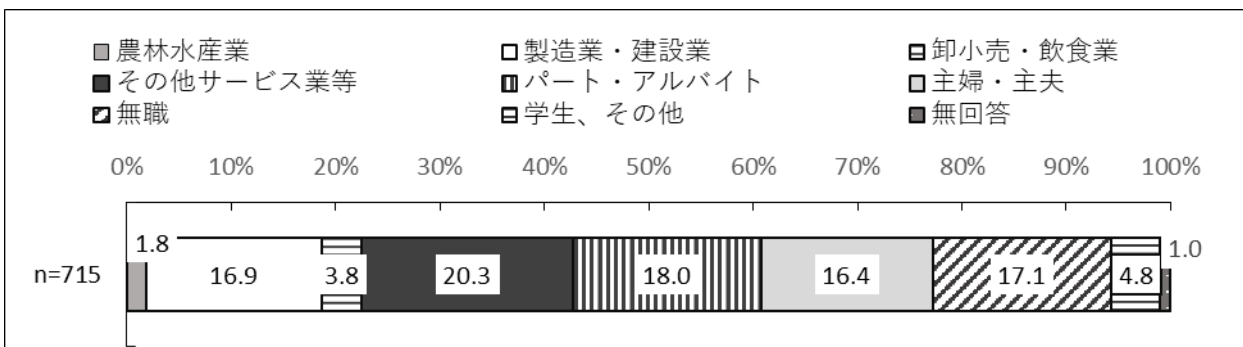
(2) 年齢

回答者の年齢は、「60歳代」が23.9%と最も高く、次いで、「70歳以上」(22.1%)、「50歳代」(18.0%)以下年代が低くなるほど少なくなっています。



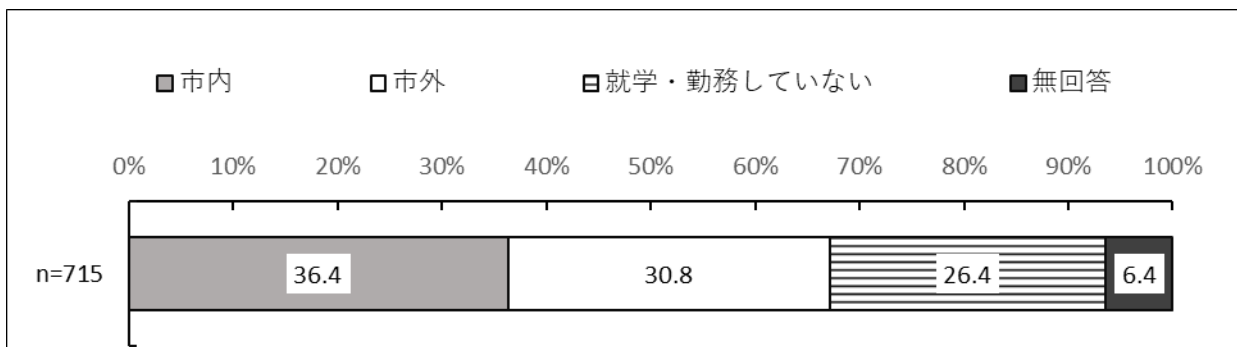
(3) 職業

回答者の職業は、「その他サービス業等（公務員を含む）」が20.3%と最も高く、次いで、「パート・アルバイト」(18.0%)、「無職」(17.1%)の順となっています。



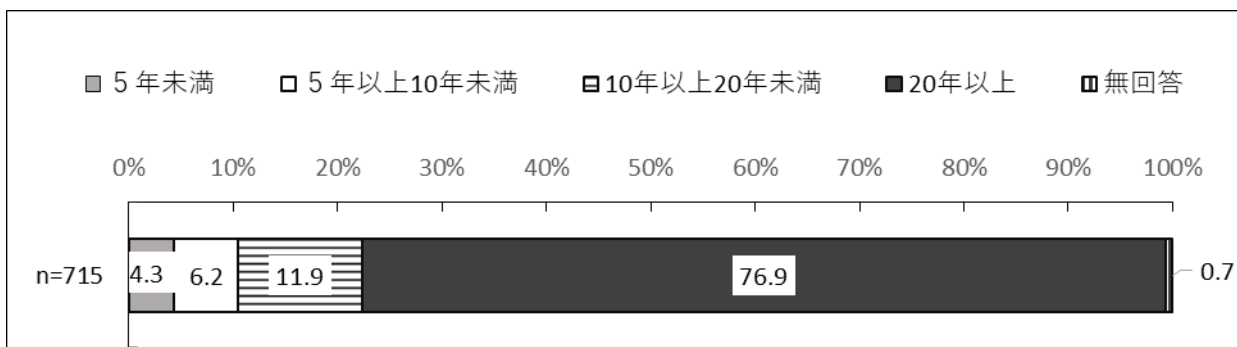
(4) 就学先・勤務先

回答者の就学先・勤務先は、「市内」が36.4%、「市外」が、30.8%、「就学・勤務していない」が26.4%で、ほぼ3等分されています。



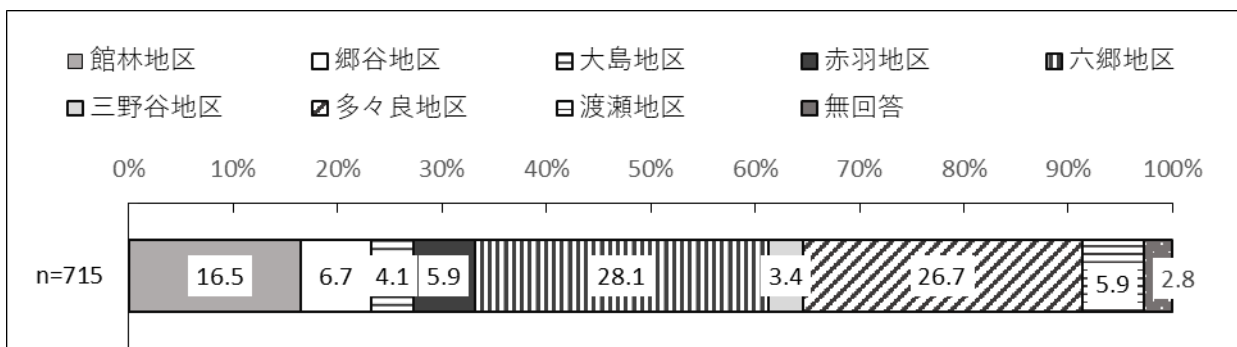
(5) 居住年数

居住年数は、「20年以上」が76.9%と最も高く、次いで、「10年以上20年未満」(11.9%)、「5年以上10年未満」(6.2%)の順となっています。



(6) 居住地

居住地は、「六郷地区」が28.1%と最も高く、次いで、「多々良地区」(26.7%)、「館林地区」(16.5%)の順となっています。



4 まちへの愛着度・定住意向について

(1) まちへの愛着度について

問2 あなたは、館林市に「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか。
(1つに○印)

【全体の傾向】

● “愛着がある” 人が8割を超えるものの、地域によって差

「とても愛着を感じている」(25.6%)と「まあまあ愛着を感じている」(57.8%)を合わせた“愛着がある”は83.4%と8割を超えています。一方、「愛着をあまり感じていない」(13.4%)と「愛着を感じていない」(2.1%)を合わせた“愛着がない”は15.5%となっています。

【属性別の傾向】

● 年齢別には、30歳代が最も低く、居住年数が長いほど愛着度があがる

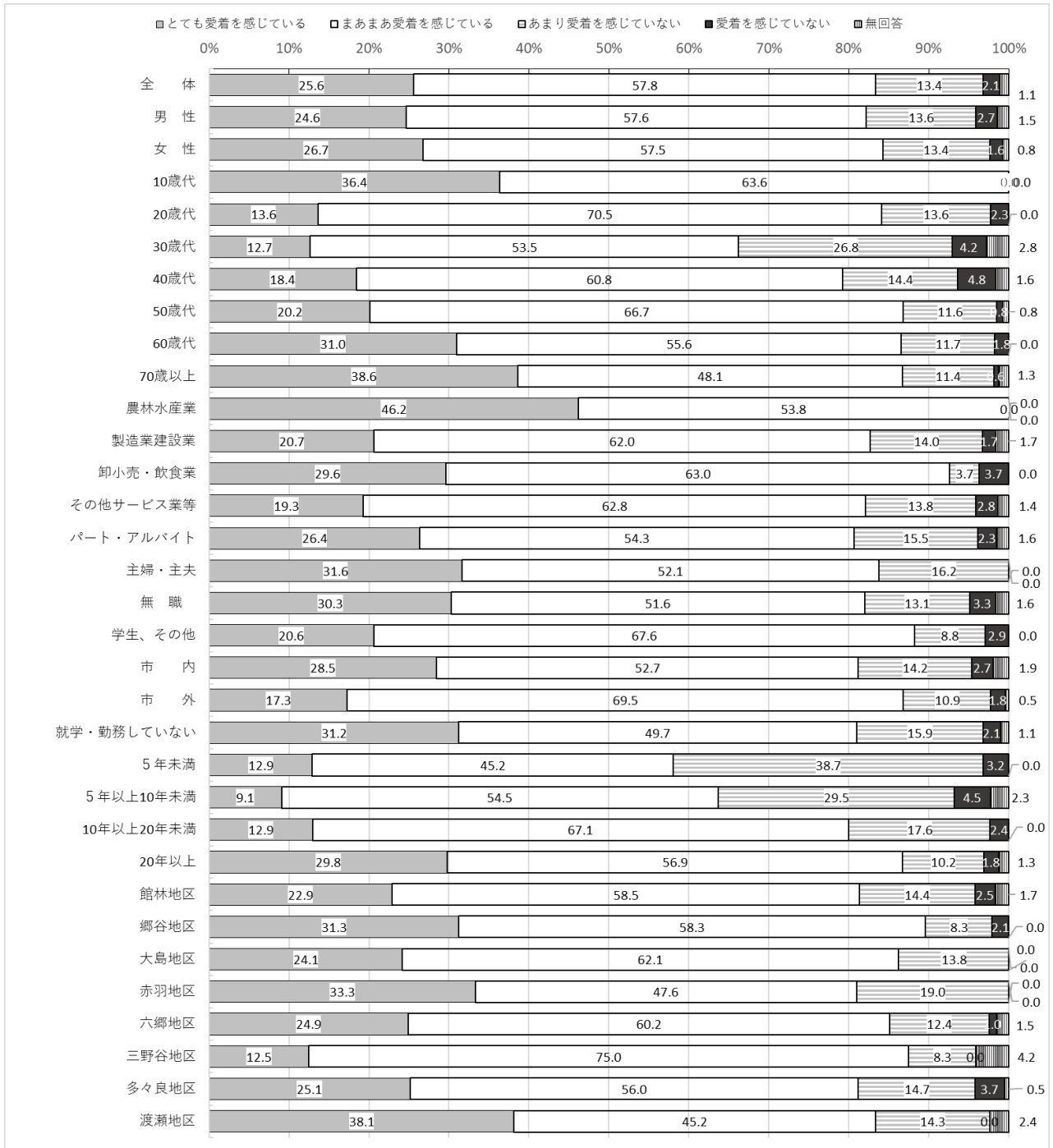
性別による差は、ありませんが、就業先・勤務先が、市外の方が、“愛着がある”の割合が高くなっています。

年齢別にみると、“愛着がある”が最も低いのは、30歳代(66.2%)で、40歳代が79.2%となっており年齢が高くなると愛着度が高くなります。

居住年数別にみると、年数が増えると“愛着がある”の割合が高くなっています。

居住地別にみると、“愛着がある”の割合が最も高いのは郷谷地区の89.6%で、三野谷地区(87.5%)、大島地区(86.2%)、六郷地区(85.1%)の4地区で85%以上となっています。最も低い赤羽地区で80.9%と全ての地区で8割以上となっています。

まちへの愛着度について



(2) 今後の定住意向について

問3 あなたは、これからも館林市に住みたいと思いますか。(1つに○印)

【全体の傾向】

● “定住希望がある” 7割弱を占めており、男女間で差がある

「住みたい」(41.8%)と「どちらかといえば住みたい」(27.1%)を合わせた“定住希望がある”は68.9%となっています。一方、「どちらかといえば住みたくない」(4.8%)、「住みたくない(できれば市外へ引越したい)」(1.5%)を合わせた“定住希望がない”は6.3%となっています。「どちらともいえない」(23.5%)「無回答」(1.3%)を合わせると、24.8%になります。

性別にみると、“定住希望がある”の割合は、男性が女性を6.4ポイント上回っており、「住みたい」「どちらかといえば住みたい」それぞれ3ポイントほど上回っています。

【属性別の傾向】

● 年齢が高いほど、また、居住年数が長いほど “定住希望がある” 割合が高い傾向

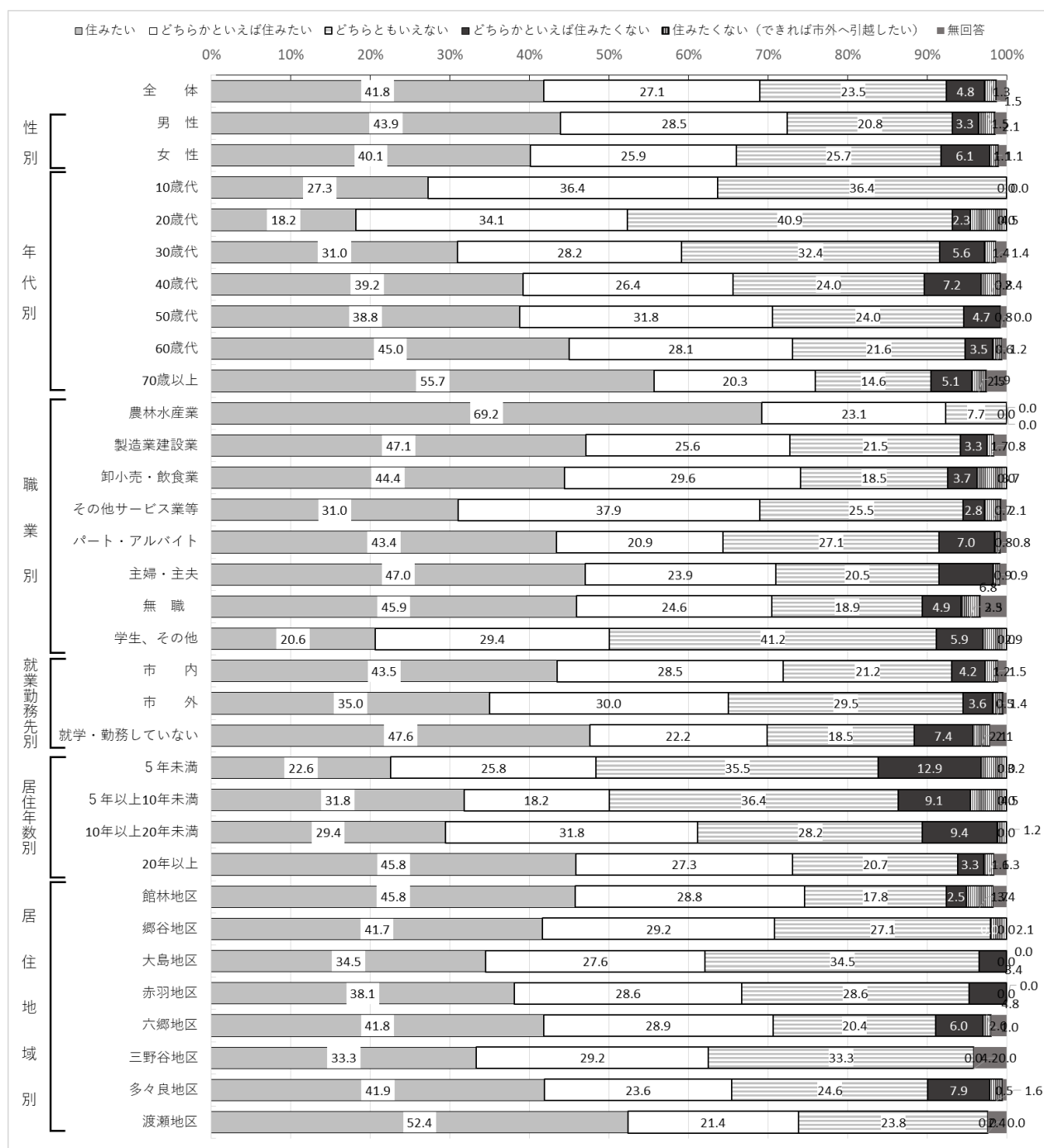
年齢別にみると、“定住希望がある”が最も低いのは、20歳代(52.3%)で、30歳代が59.2%となっており年齢が高くなると定住希望度が高くなります。

就業先・勤務先が、市内の方が、“愛着がある”とは逆に、“定住希望がある”の割合が高くなっています。

居住年数別にみると、年数が長いほど“定住希望がある”の割合が高くなっています。

居住地別にみると、“定住希望がある”の割合が最も高いのは館林地区の74.6%、次いで渡瀬地区が73.8%となっていますが、「住みたい」の割合は、渡瀬地区が52.4%と最も高くなっています。また、郷谷地区(70.9%)、六郷地区(70.7%)を含め4地区で70%以上となっています。最も低い大島地区で62.1%と全ての地区で6割以上となっています。

今後の定住意向について



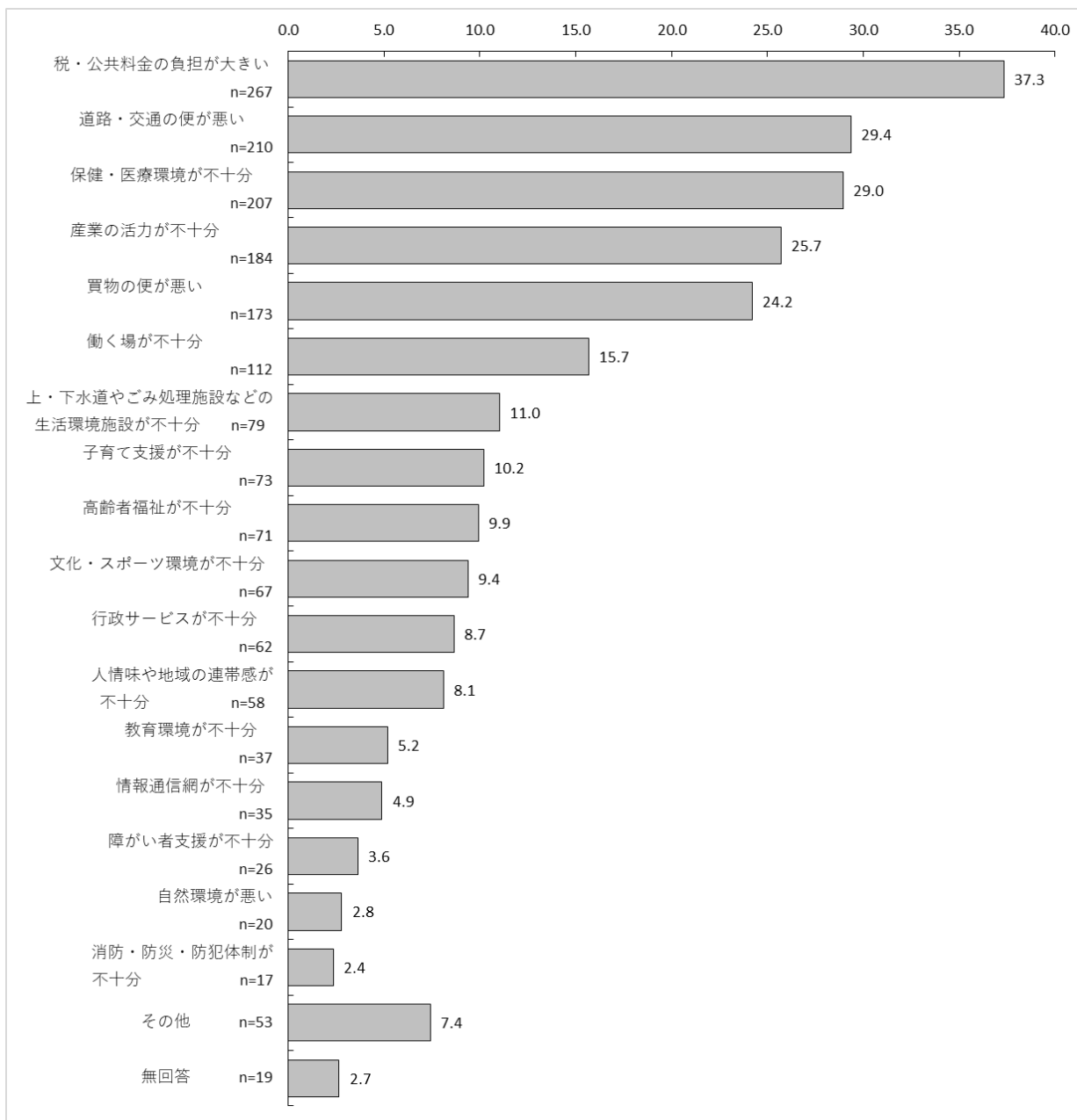
(3) 館林市に不足しているもの

問4 館林市に不足しているものはなんですか。(3つまで○印)

【全体の傾向】

● 「税・公共料金の負担が大きい」が第1位

「税・公共料金（上・下水道料、施設使用料など）の負担が大きい」が37.3%と最も高く、次いで、「道路・交通の便が悪い」（29.4%）、「保健・医療環境が不十分」（29.0%）の順となっています。



【属性別の傾向】

● 「税・公共料金の負担が大きい」の回答は、50歳代以上で第1位

性別にみると、男女とも第1位は「税・公共料金（上・下水道料、施設使用料など）の負担が大きい」、第3位は「道路・交通の便が悪い」ですが、第2位が男性では、「産業の活力が不十分」、女性では、「保健・医療環境が不十分」となっています。

年齢別にみると、10代では、第2位が4項目となっています。50代以上では、全体と同様に「税・公共料金（上・下水道料、施設使用料など）の負担が大きい」が第1位となっており、4～5割ありますが、40代以下では、3割未満で、その上位3位には、30歳代の第3位のみが入ることとなっています。

館林市に不足しているもの①

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位
全体		税・公共料金の負担が大きい※ 37.3%	道路・交通の便が悪い 29.4%	保健・医療環境が不十分 29.0%
性別	男性	税・公共料金の負担が大きい※ 38.6%	産業の活力が不十分 30.3%	道路・交通の便が悪い 28.5%
	女性	税・公共料金の負担が大きい※ 35.8%	保健・医療環境が不十分 33.7%	道路・交通の便が悪い 30.5%
年齢別	10代	道路・交通の便が悪い 45.5%	保健・医療環境が不十分／文化・スポーツ環境が不十分／産業の活力が不十分／買物の便が悪い 27.3%	
	20代	働く場が不十分 38.6%	道路・交通の便が悪い／買物の便が悪い 25.0%	
	30代	道路・交通の便が悪い 31.0%	保健・医療環境が不十分 28.2%	税・公共料金の負担が大きい※ 26.8%
	40代	保健・医療環境が不十分 32.8%	道路・交通の便が悪い／産業の活力が不十分 27.2%	
	50代	税・公共料金の負担が大きい※ 38.0%	保健・医療環境が不十分／買物の便が悪い 30.2%	
	60代	税・公共料金の負担が大きい※ 51.5%	保健・医療環境が不十分 31.6%	道路・交通の便が悪い 30.4%
	70歳以上	税・公共料金の負担が大きい※ 39.9%	道路・交通の便が悪い 31.6%	産業の活力が不十分 30.4%
居住年数	5年未満	道路・交通の便が悪い 35.5%	税・公共料金の負担が大きい※ 25.8%	子育て支援が不十分／買物の便が悪い 22.6%
	5年以上 10年未満	道路・交通の便が悪い／買物の便が悪い 27.3%		保健・医療環境が不十分 25.0%
	10年以上 20年未満	道路・交通の便が悪い 34.1%	保健・医療環境が不十分 29.4%	税・公共料金の負担が大きい※ 28.2%
	20年以上	税・公共料金の負担が大きい※ 40.4%	保健・医療環境が不十分 30.2%	道路・交通の便が悪い 28.7%

※アンケートでは、「税・公共料金（上・下水道料、施設使用料など）の負担が大きい」

館林市に不足しているもの②

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位
全体		税・公共料金の負担が大きい※ 37.3%	道路・交通の便が悪い 29.4%	保健・医療環境が不十分 29.0%
職業別	農林水産業	保健・医療環境が不十分 61.5%	産業の活力が不十分 53.8%	税・公共料金の負担が大きい※ 46.2%
	製造業・建設業	税・公共料金の負担が大きい※ 43.8%	保健・医療環境が不十分 24.8%	道路・交通の便が悪い 23.1%
	卸小売・飲食業	税・公共料金の負担が大きい※ 48.1%	産業の活力が不十分 40.7%	買物の便が悪い／行政サービスが不十分 22.2%
	その他サービス業等（公務員を含む）	税・公共料金の負担が大きい※／道路・交通の便が悪い／産業の活力が不十分		28.3%
	パート・アルバイト	保健・医療環境が不十分 36.4%	税・公共料金の負担が大きい※ 35.7%	道路・交通の便が悪い 32.6%
	主婦・主夫	税・公共料金の負担が大きい※ 39.3%	保健・医療環境が不十分 36.8%	道路・交通の便が悪い 30.8%
	無職	税・公共料金の負担が大きい※ 40.2%	道路・交通の便が悪い 36.1%	産業の活力が不十分 27.9%
	学生、その他	道路・交通の便が悪い 29.4%	保健・医療環境が不十分／買物の便が悪い／働く場が不十分／税・公共料金の負担が大きい※	23.5%
就学・勤務先別	市内	税・公共料金の負担が大きい※ 41.5%	道路・交通の便が悪い 31.2%	産業の活力が不十分 30.4%
	市外	税・公共料金の負担が大きい※／保健・医療環境が不十分	28.2%	買物の便が悪い 25.9%
	就学・勤務していない	税・公共料金の負担が大きい※ 40.2%	道路・交通の便が悪い 25.8%	保健・医療環境が不十分 22.6%

※アンケートでは、「税・公共料金（上・下水道料、施設使用料など）の負担が大きい」

館林市に不足しているもの③

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位
全体		税・公共料金の負担が大きい※ 37.3%	道路・交通の便が悪い 29.4%	保健・医療環境が不十分 29.0%
居住地別	館林地区	保健・医療環境が不十分 35.6%	税・公共料金の負担が大きい※ 34.7%	産業の活力が不十分 28.0%
	郷谷地区	税・公共料金の負担が大きい※ 37.5%	保健・医療環境が不十分 35.4%	道路・交通の便が悪い 33.3%
	大島地区	道路・交通の便が悪い 44.8%	保健・医療環境が不十分／税・公共料金の負担が大きい※ 34.5%	
	赤羽地区	税・公共料金の負担が大きい※ 38.1%	保健・医療環境が不十分 28.6%	道路・交通の便が悪い／産業の活力が不十分 21.4%
	六郷地区	税・公共料金の負担が大きい※ 42.3%	道路・交通の便が悪い 28.4%	産業の活力が不十分 25.4%
	三野谷地区	税・公共料金の負担が大きい※ 41.7%	道路・交通の便が悪い 37.5%	買物の便が悪い 33.3%
	多々良地区	税・公共料金の負担が大きい※ 37.2%	道路・交通の便が悪い 34.0%	買物の便が悪い 28.8%
	渡瀬地区	保健・医療環境が不十分 42.9%	産業の活力が不十分 38.1%	買物の便が悪い 28.6%

※アンケートでは、「税・公共料金（上・下水道料、施設使用料など）の負担が大きい」

＜その他の意見＞

車社会を前提に社会が成り立っているので、今後の高齢化で問題が生じる。／市内の公共交通が不十分。館林 IC の渋滞がひどい。通学路に横断歩道が少ない。／街路樹や植栽の整備。街灯がない。街灯が不足している。道が狭い。日立物流の北の道が狭い。／道路整備。道路の状態が悪い。大街道に家が多すぎ。／ゴミの分別。／ゴミ出しのマナーが悪い。／ゴミ収集日が少ない。／カラスによるゴミ問題。／犬の糞尿が酷い。／市全体活力が不十分。／市民生活に活力がない。／公園。病院。厚生病院が充実していない。／子どもの遊ぶ施設がない。／遊ぶ場所がない。／もっと集会所を利用してほしい。／城沼に観光施設がほしい。／レジャー施設がない。／集客力がない。／温泉施設、イベントがない。／商店街の活気。／商業施設がない。／イオンなどのショッピングモールしかない。／大きな商業施設が欲しい大型店がない。／若者が好む飲食店や商業施設がない。／魅力的な店が少ない／城沼周辺、雑草が多く危険。／高根グラウンド、公民館がうるさい。ストレス！／特になし。／新しいことを受け入れる気持ち。／動物愛が無さすぎる。／財政。／水道水がまずい。／災害時、年配者への伝達方法。／若い世代が少ない。／空き家が増え、防犯が心配。／防犯カメラなどの設置が不十分。／空き地の活用。／税の負担が大きい。／水道料金が低い。

5 市政に対する現状評価と今後の期待について

(1) 市の各分野に関する満足度

問5 館林市では、これまでたてばやし市民計画 2020/館林市第五次総合計画（平成 23～令和 2 年度）に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度について、それぞれ項目ごとに1つずつ○印をつけてください。 (1)満足度 館林市の今の状況についてどう思いますか。

【全体の傾向】

● “満足” は、生活環境分野。“不満” は快適・環境分野

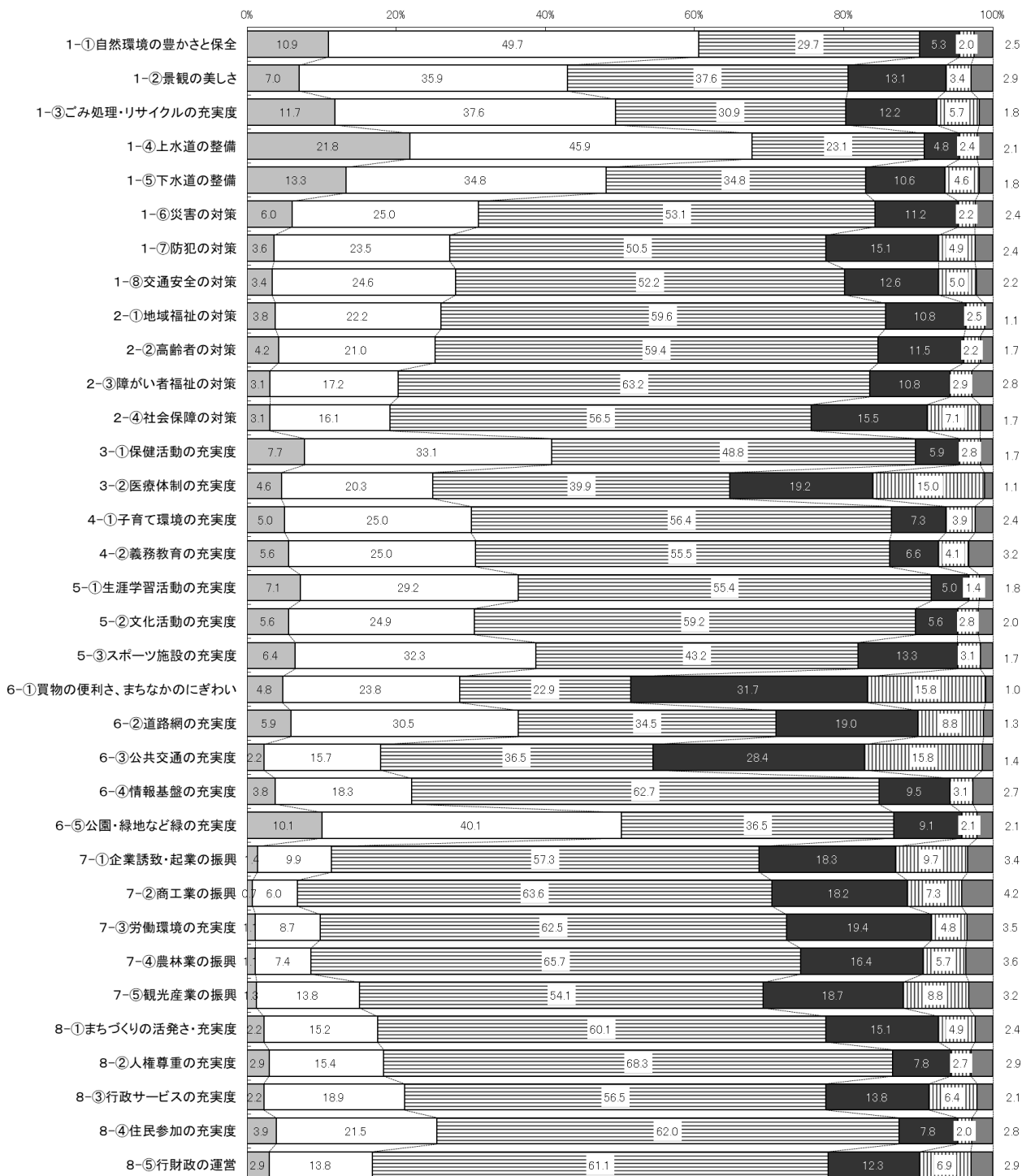
館林市での現在の暮らしを「満足度」として 34 項目についてたずねたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた“満足”は、「1－④上水道(安全・安心な水の安定供給など)の整備」が 67.7%と最も高く、次いで、「1－①自然環境(大気・水環境、動物・植物など)の豊かさと保全」(60.6%)、「6－⑤公園・緑地など緑の充実度」(50.2%)の順となっています。

一方、「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた“不満”は、「6－①買物(商店、スーパーなど)の便利さ、まちなかのにぎわい」が 47.5%と最も高く、次いで、「6－③公共交通(鉄道・バスなど)の充実度」(44.2%)、「3－②医療体制(地域医療、休日医療など)の充実度」(34.2%)の順となっています。

現状の満足度

満足している
 どちらかといえば満足している
 どちらともいえない
 どちらかといえば不満である
 不満である
 無回答

n=715



(2) 今後の重要度

館林市では、これまでたてばやし市民計画 2020/館林市第五次総合計画（平成 23～令和 2 年度）に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めてきました。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度について、それぞれ項目ごとに1つずつ○印をつけてください。

(2)重要度 今後のまちづくりにおける重要度についてどう思いますか。

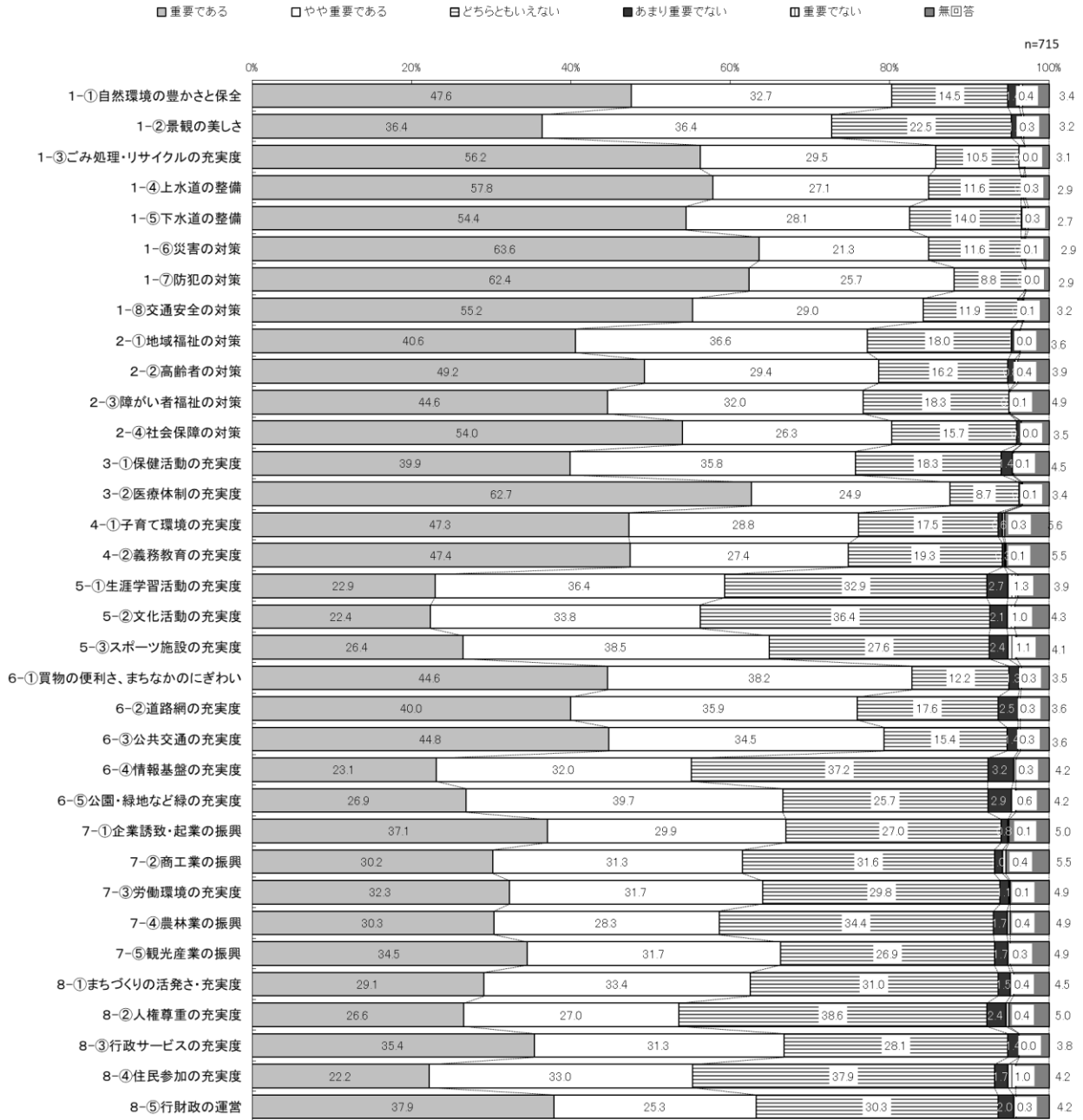
【全体の傾向】

● “重要である” では「防犯対策」や「医療体制」が高い

館林市での今後の暮らしを「重要度」として 34 項目についてたずねたところ、「重要である」と「やや重要である」を合わせた“重要である”は、「1－⑦防犯(犯罪からの安全、パトロール)の対策」が 88.1%、次いで、「3－②医療体制(地域医療、休日医療など)の充実度」(87.6%)、「1－③ごみ処理・リサイクル(収集・処理、再利用など)の充実度」(85.7%)の順となっています。

一方、「重要でない」と「あまり重要でない」を合わせた“重要でない”は、「5－①生涯学習活動(学習機会、公民館活動など)の充実度」が 4.0%と最も高く、次いで、「5－③スポーツ施設(身近な公園・広場・緑地、運動場など)の充実度」、「6－⑤公園・緑地など緑の充実度」が共に 3.5%となっています。

今後の重要度



(3) 点数化による分析

※加重平均値の算出方法（重要度も同様）

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left(\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答数} \times 10 \text{ 点} \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答数} \times 5 \text{ 点} \\ \text{「どちらともいえない」の回答数} \times 0 \text{ 点} \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答数} \times -5 \text{ 点} \\ \text{「不満である」の回答数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right)}{\left(\begin{array}{l} \text{「満足している」、「やや満足している」、「どちらともいえない」、「あまり満足していない」、「満足していない」の回答数の合計} \end{array} \right)}$$

この算出方法により、評価点は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を堺に、10点に近くなるほど評価は高くなり、逆に-10点に近くなるほど評価が低くなる。

① 満足度と重要度の分布

【全体の傾向】

●『満足度が低く重要度が高い』項目は、「医療」、「社会保障」、「買い物」、「福祉」、「交通」

満足度と重要度をそれぞれ横軸、縦軸に設定し、分布図を作成しました。また、満足度と重要度それぞれについて34項目の点数の平均点を算出し、グラフ上にラインを引くと4つのエリアに分類されます。ここでは『満足度が低く重要度が高い』項目の左上エリアを中心にみていくこととします。

『満足度が低く重要度が高い』について、全体では、8項目あります。

1 生活環境分野

⑦防犯(犯罪からの安全、パトロール)の対策

⑧交通安全(意識啓発、交通安全施設などの整備)の対策

2 福祉分野

③障がい者福祉(福祉・介護サービス、社会参加など)の対策

④社会保障(国民健康保険、年金、生活困窮者、母子・父子家庭など)の対策

3 保健・医療分野

②医療体制(地域医療、休日医療など)の充実度

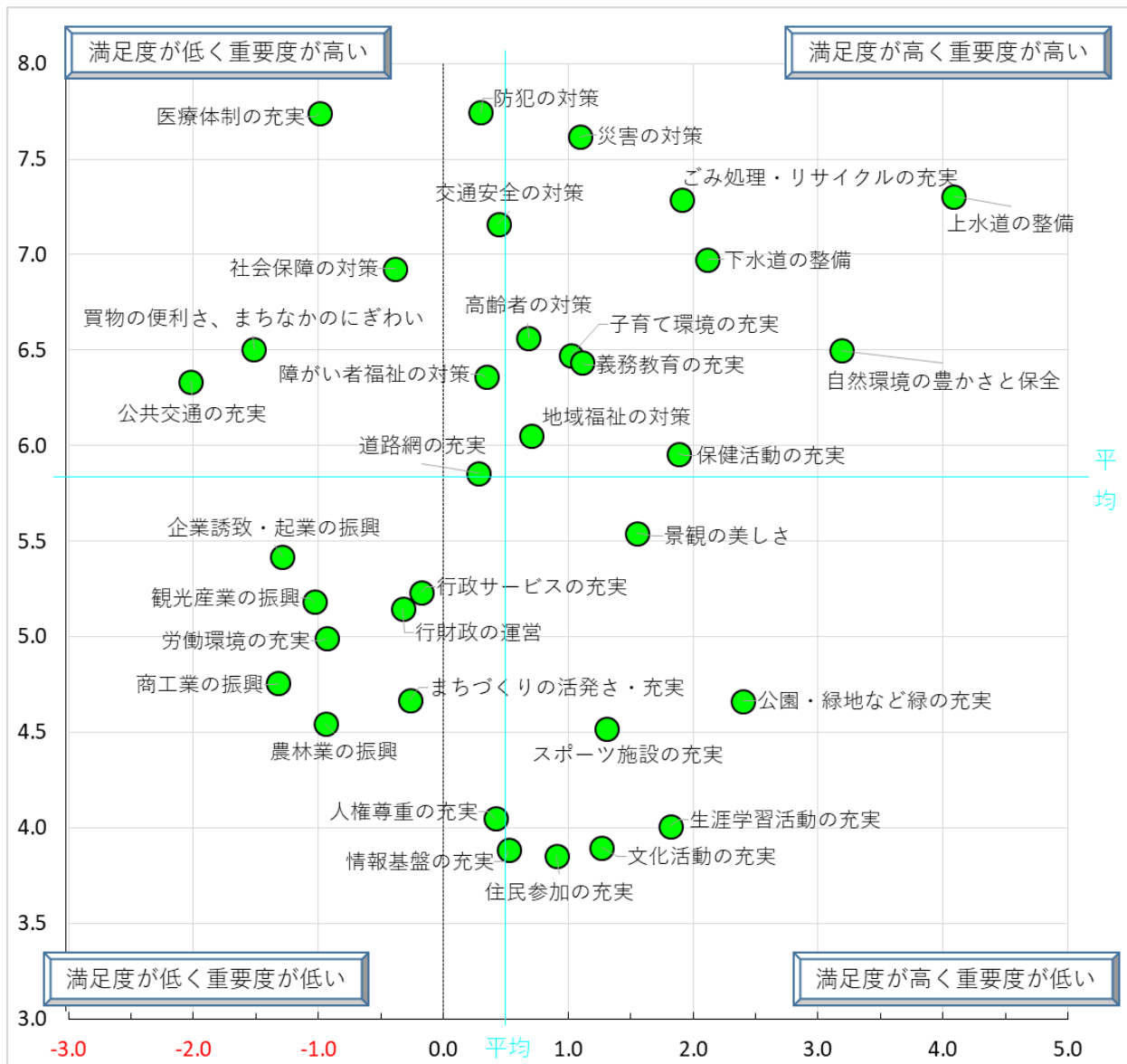
6 快適・環境分野

①買物(商店、スーパーなど)の便利さ、まちなかのにぎわい

②道路網(国道、県道、市道など)の充実度

③公共交通(鉄道・バスなど)の充実度

重要度・満足度【全体】



【属性別の傾向】

●「満足度」は、地域により違いがみられるが、「重要度」の分布傾向は概ね似通っている

分野ごとに地域別の「満足度」「重要度」項目をみていきます。

生活環境分野では、郷谷地区が各項目第1～3位の満足度となっています。渡瀬地区は、自然環境の豊かさと保全、景観の美しさ、ごみ処理・リサイクルの充実度の3項目で第1位となっています。

福祉分野では、三野谷地区が各項目第1～3位の満足度となっています。郷谷地区は、社会保障の対策がマイナスですが、他の項目は第1位・第3位となっています。渡瀬地区は、障がい者福祉の対策、社会保障の対策で第1位となっており、重要度もこの3地区が高くなっています。

保険・医療分野では、医療体制の充実度についての「満足度」が全地区でマイナスとなっており、その「重要度」は、最も大きな値となっています。

子育て・教育分野と生涯学習・文化・スポーツ分野では、「満足度」「重要度」ともに地区別に差はありませんが、三野谷地区のスポーツ施設の充実度の「満足度」がマイナスとなっています。

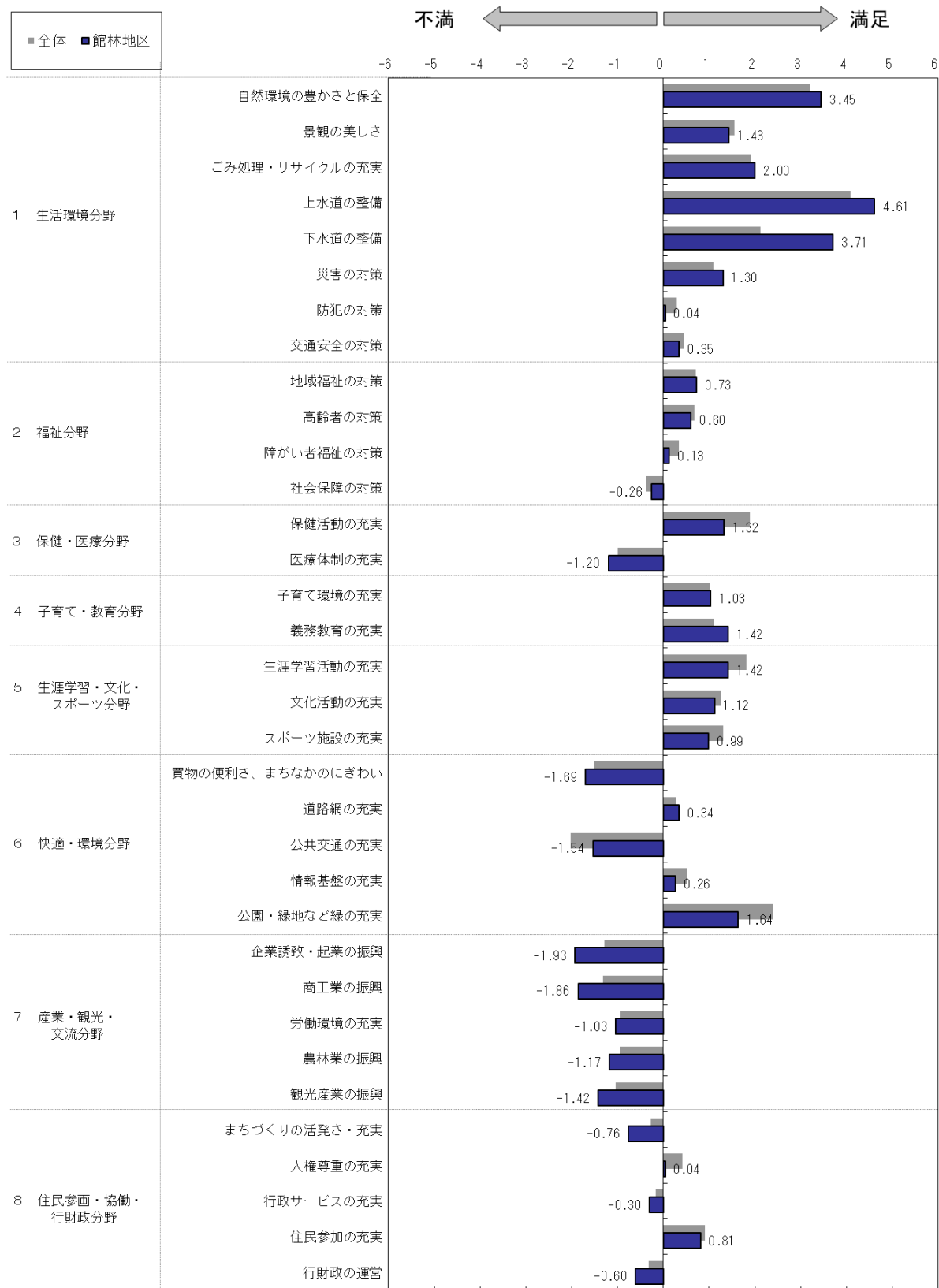
快適・環境分野では、買物の便利さ、まちなかのにぎわいと公共交通の充実度についての「満足度」が全地区でマイナスとなっています。

産業・観光・交流分野では、三野谷地区の企業誘致・起業の振興と観光産業の振興以外は、「満足度」がマイナスとなっています。

住民参画・協働・行政分野では、大島地区は、全ての項目で「満足度」がプラス、郷谷地区は、まちづくりの活発さ・充実度以外は「満足度」がプラス、赤羽地区では、住民参加の充実度を除き「満足度」がマイナスとなっています。

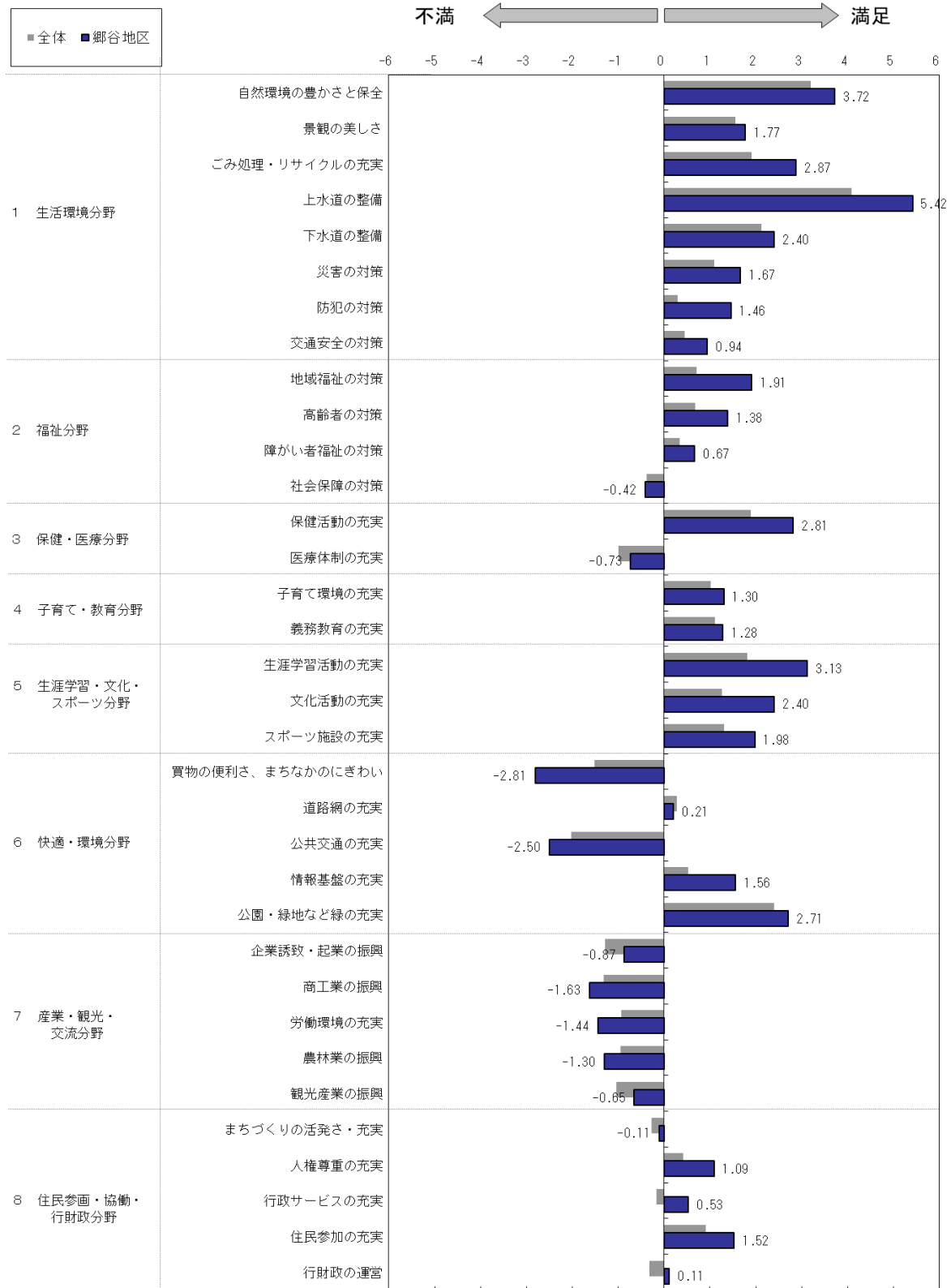
地区別の満足度（加重平均値）

【 館林地区 】



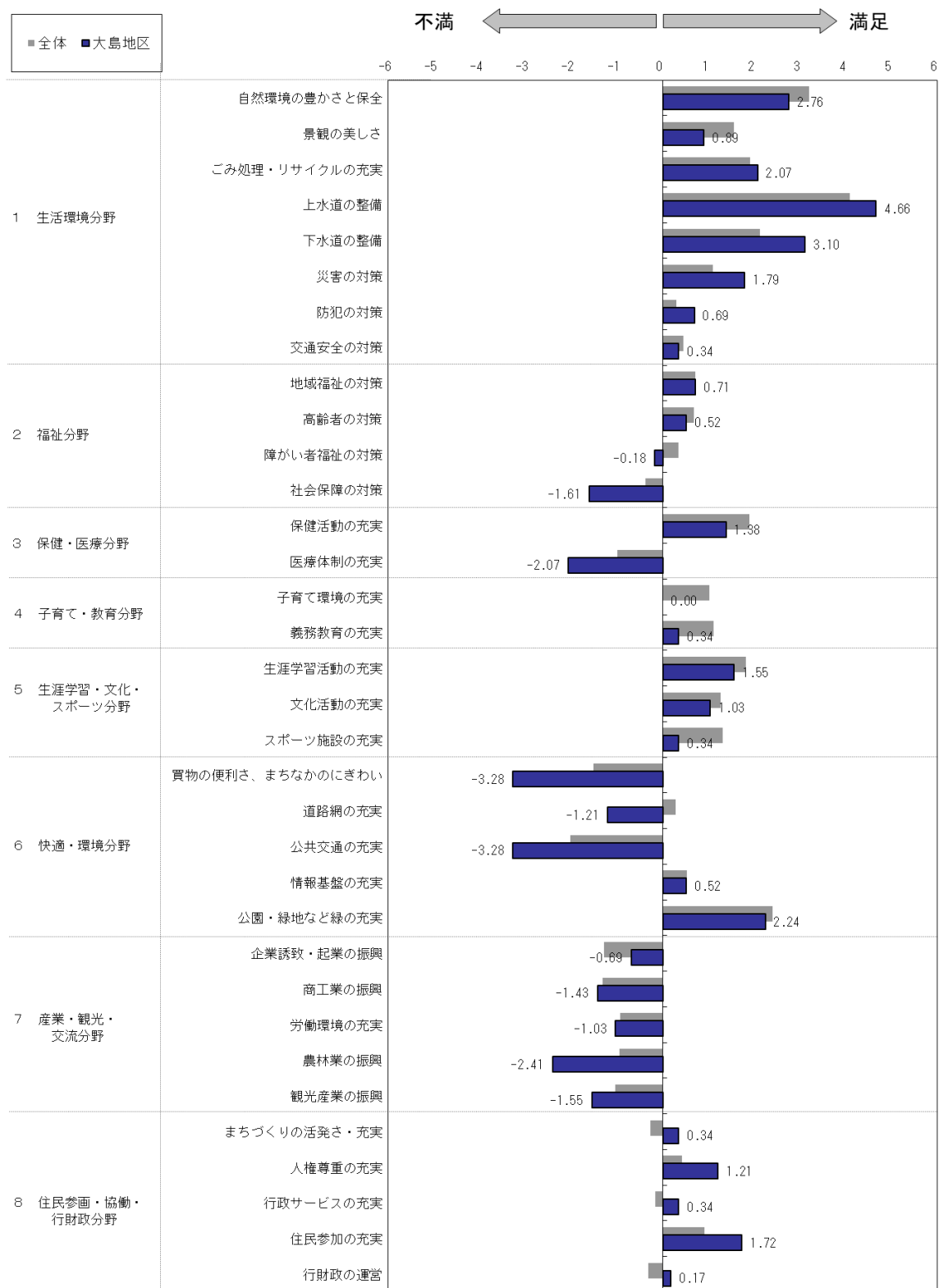
地区別の満足度（加重平均値）

【 郷谷地区 】



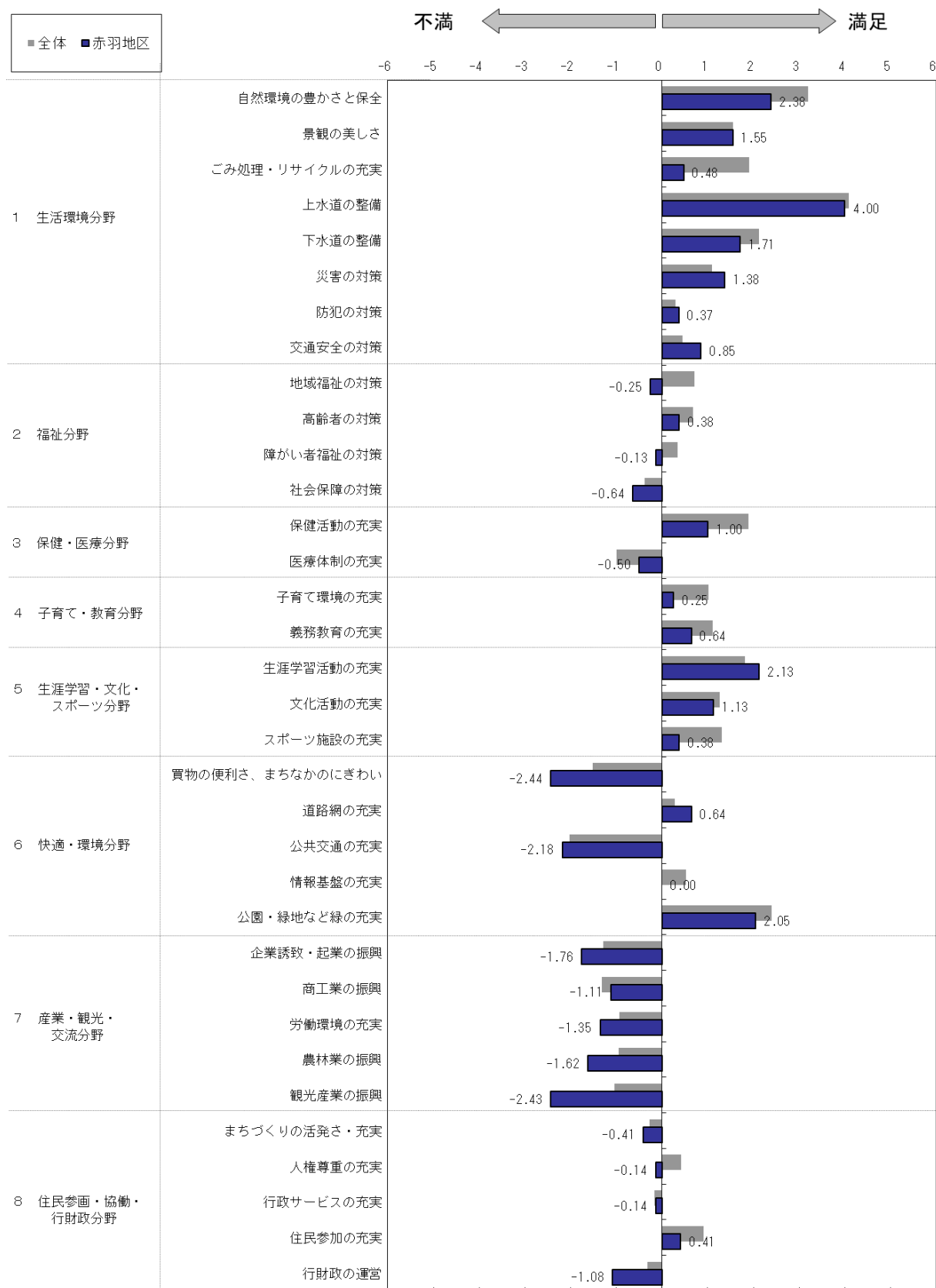
地区別の満足度（加重平均値）

【 大島地区 】



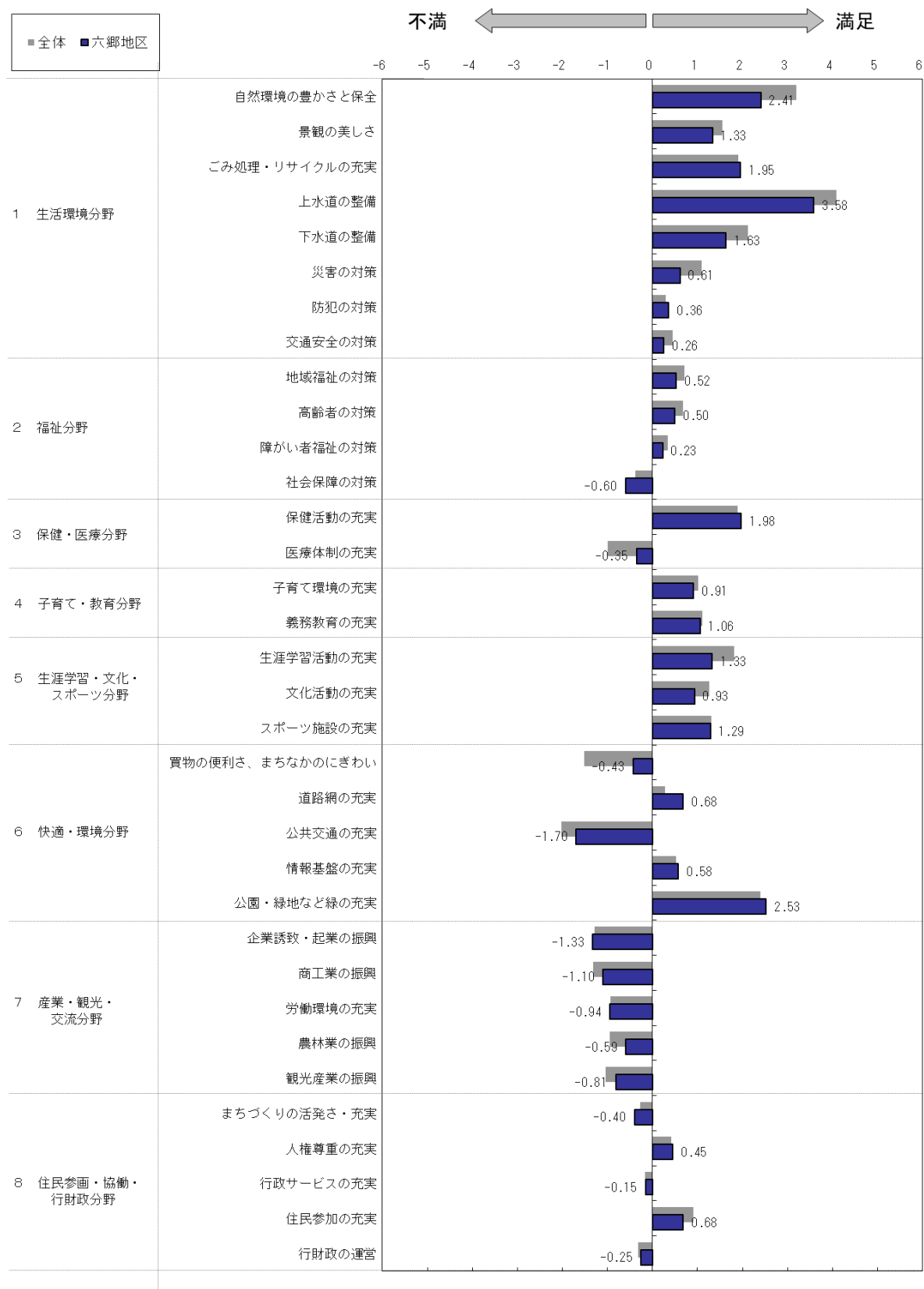
地区別の満足度（加重平均値）

【 赤羽地区 】



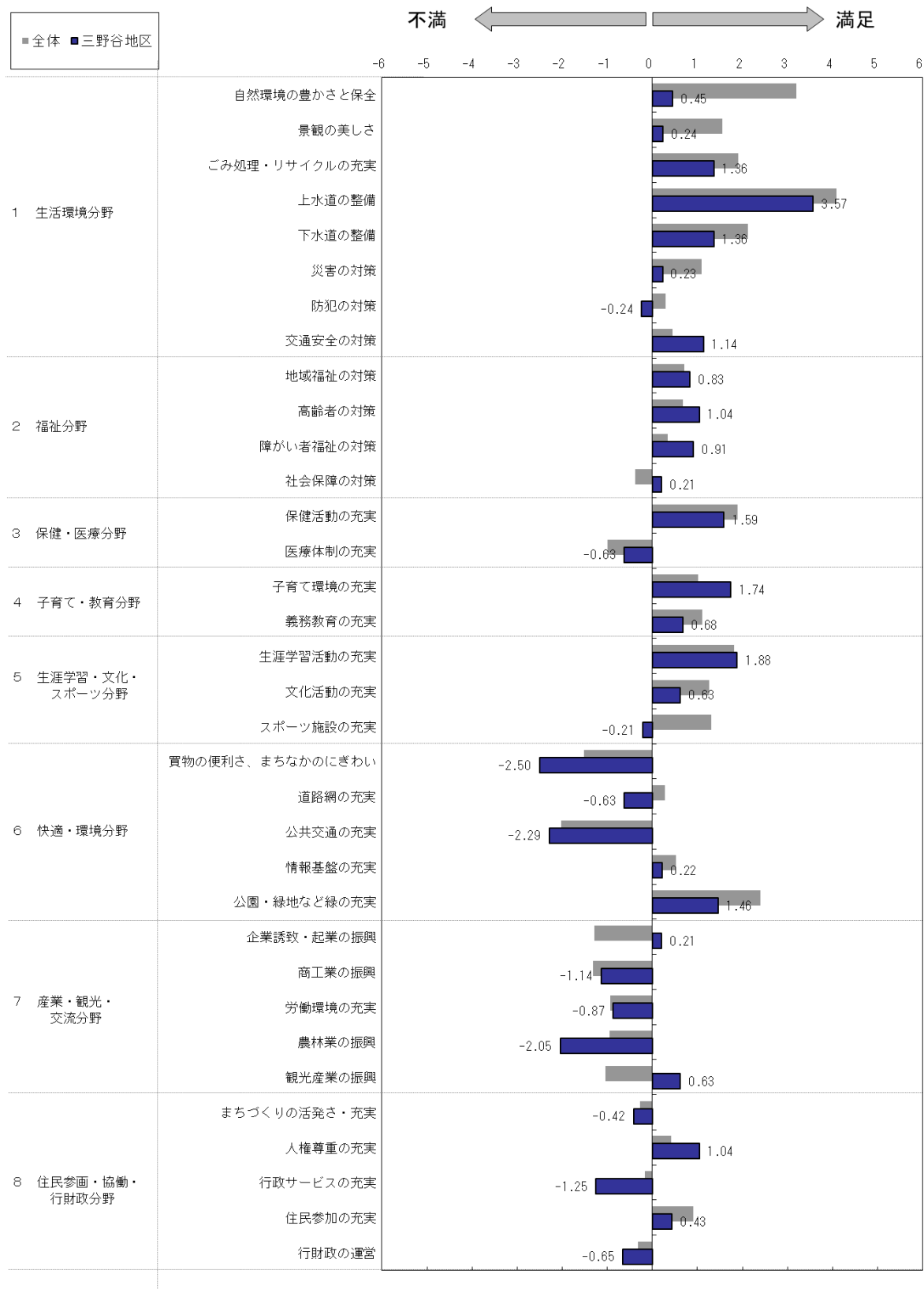
地区別の満足度（加重平均値）

【 六郷地区 】



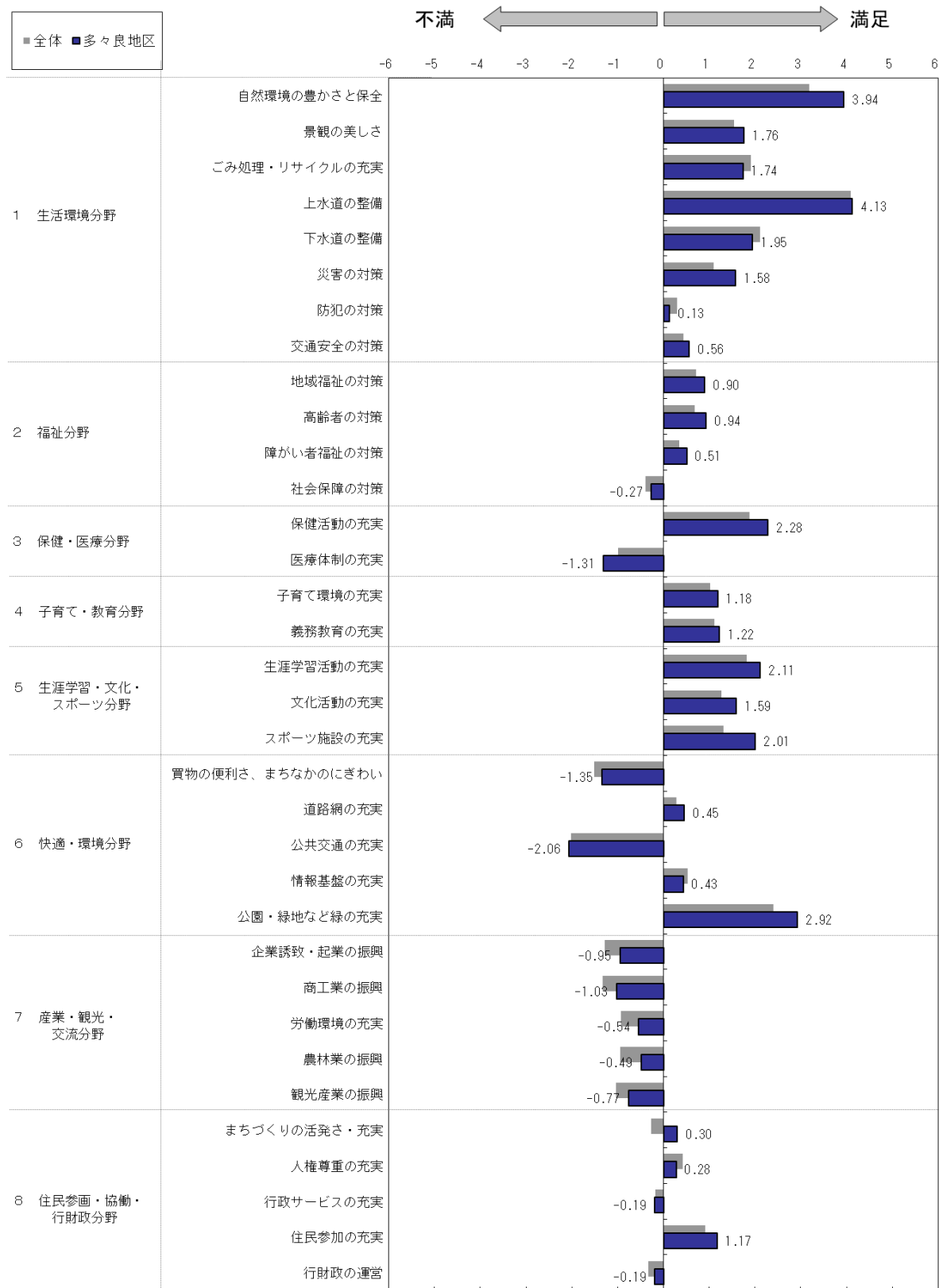
地区別の満足度（加重平均値）

【 三野谷地区 】



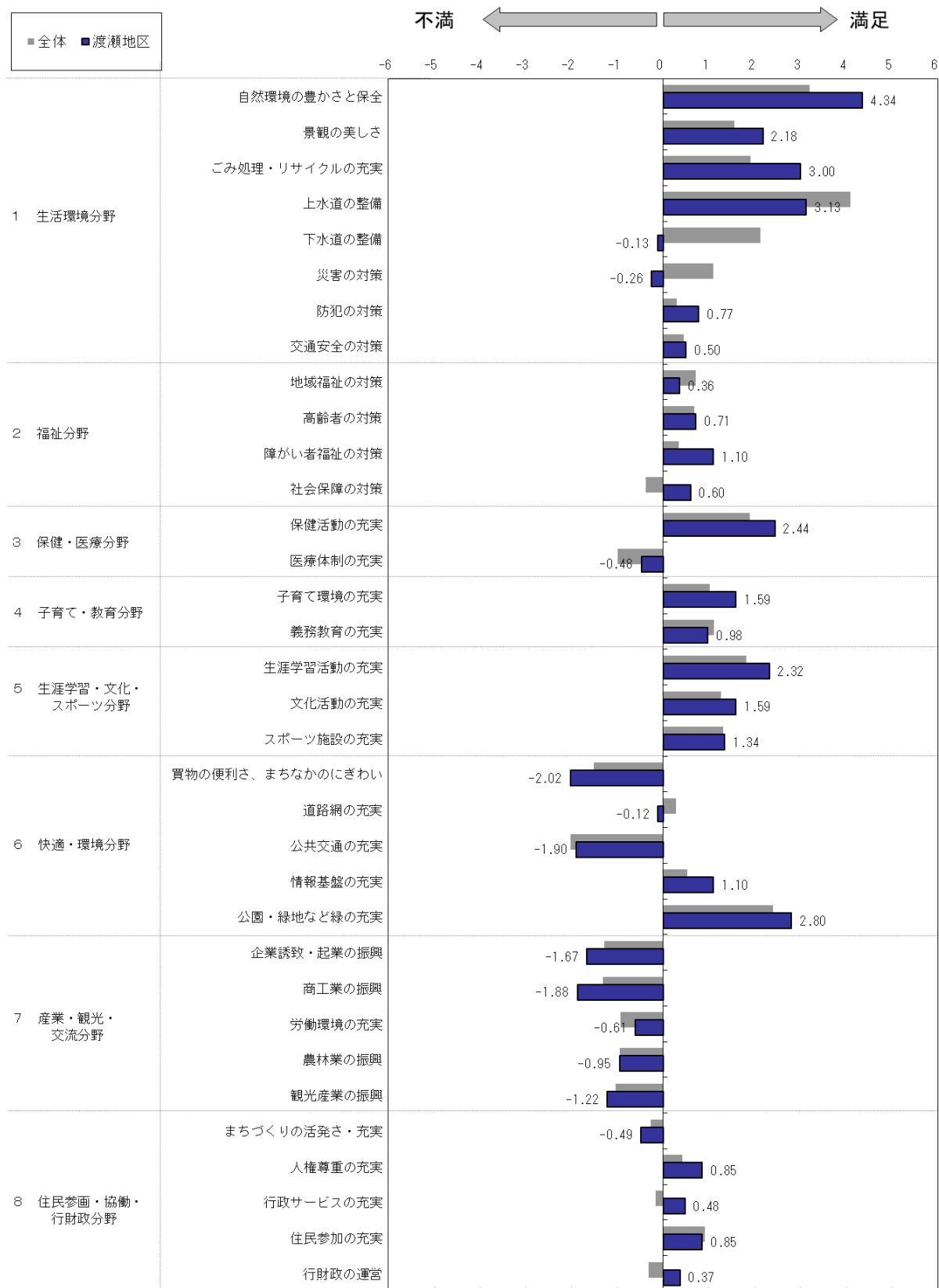
地区別の満足度（加重平均値）

【 多々良地区 】



地区別の満足度（加重平均値）

【 渡瀬地区 】



地区別の重要度（加重平均値）

【 館林地区 】



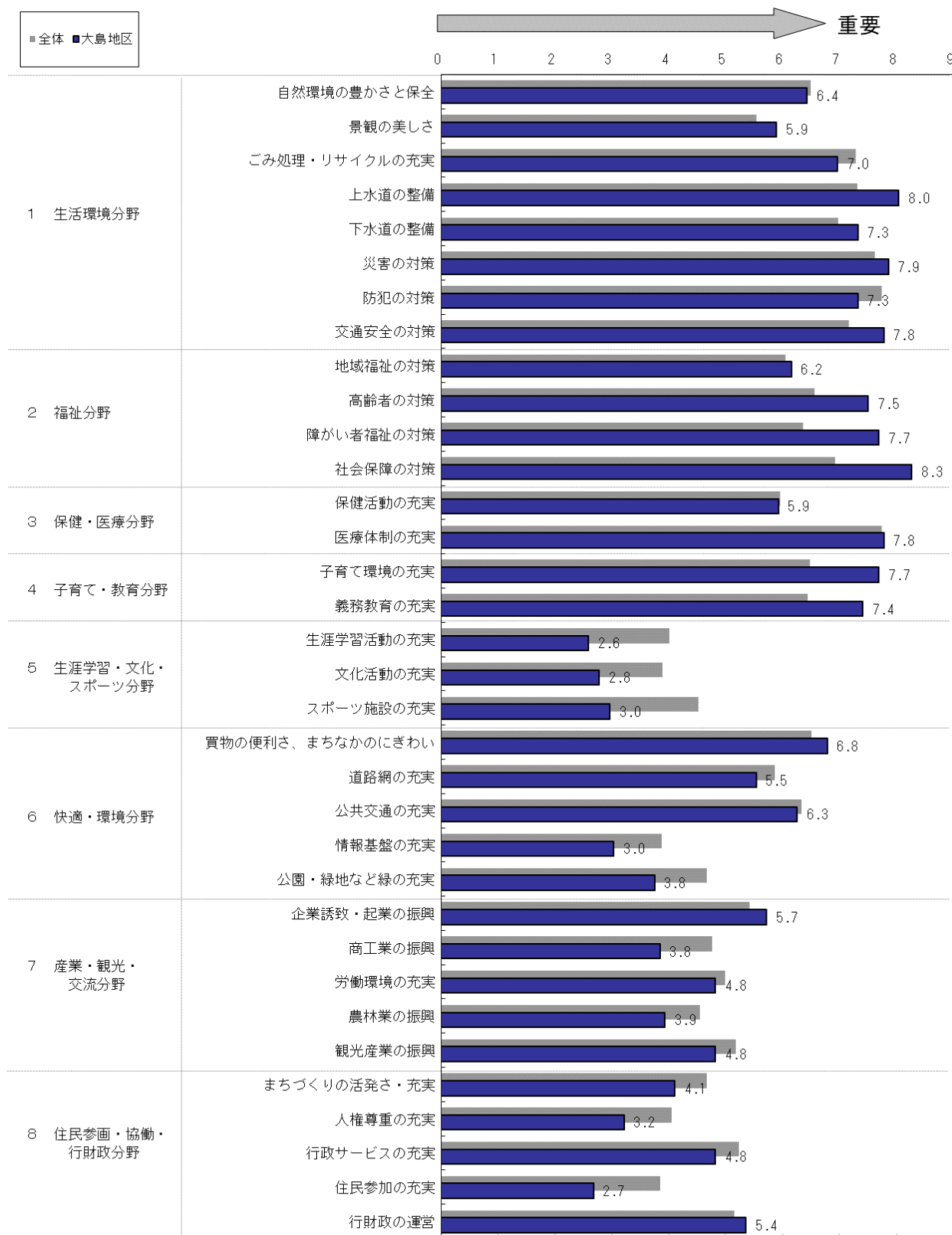
地区別の重要度（加重平均値）

【 郷谷地区 】



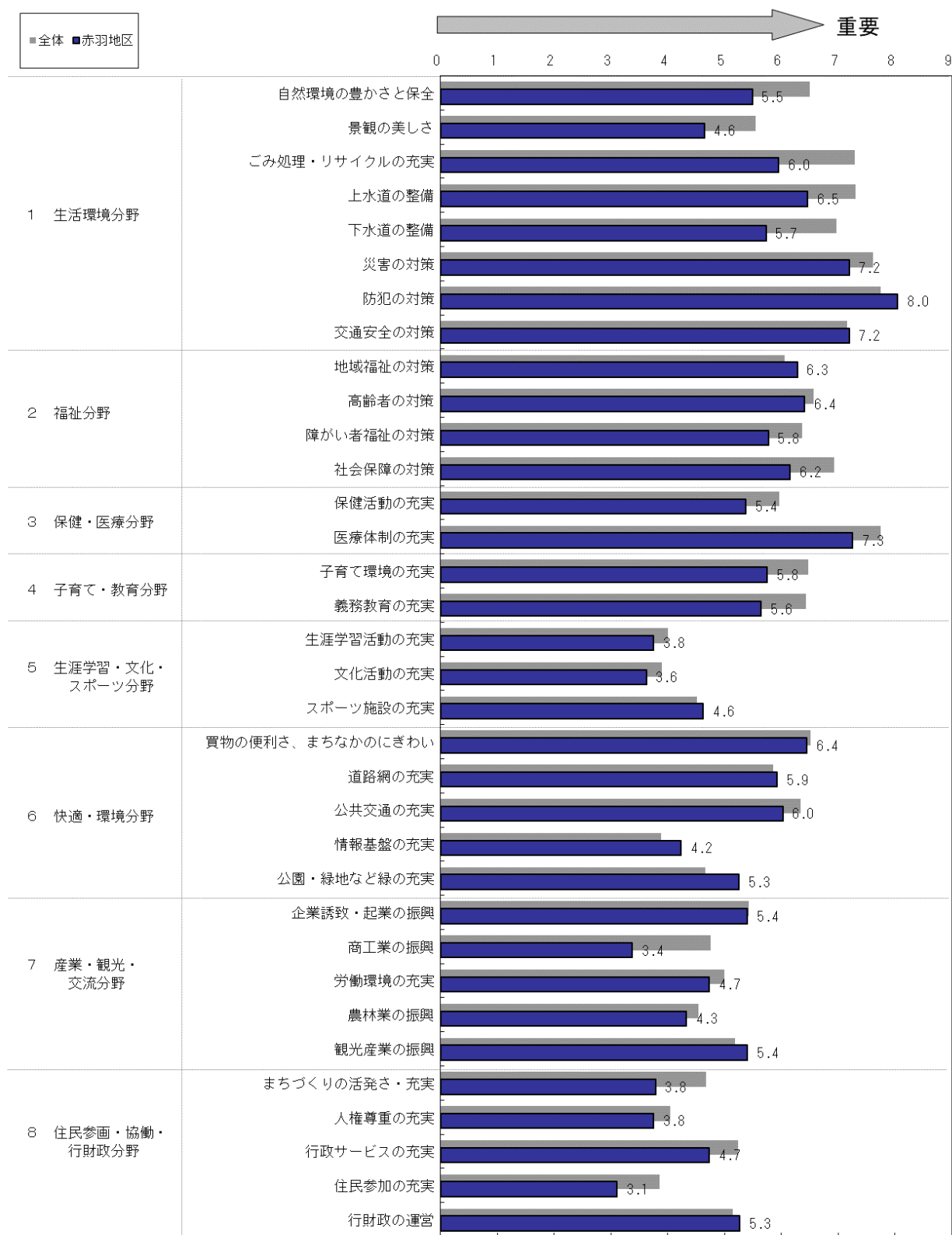
地区別の重要度（加重平均値）

【 大島地区 】



地区別の重要度（加重平均値）

【 赤羽地区 】



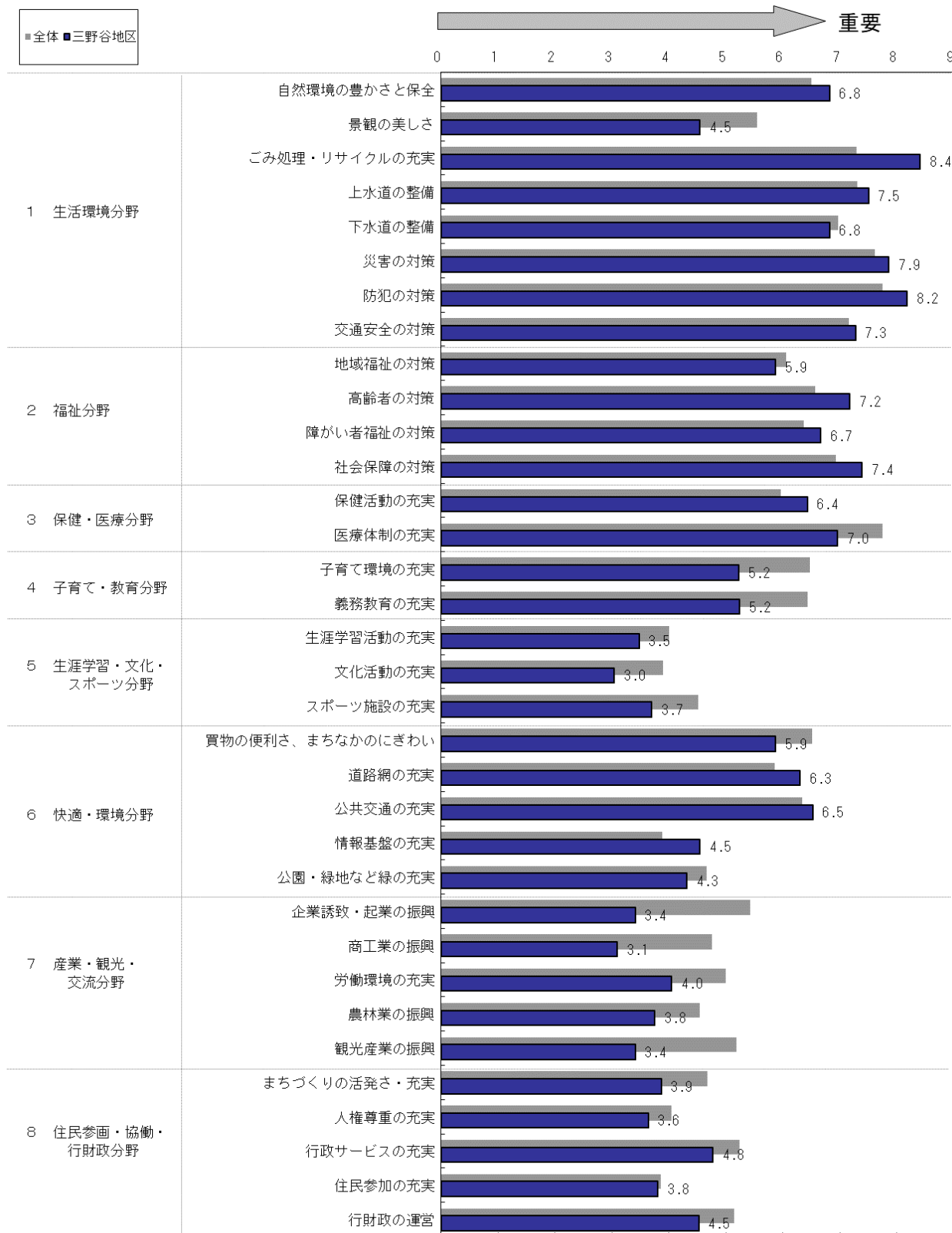
地区別の重要度（加重平均値）

【 六郷地区 】



地区別の重要度（加重平均値）

【 三野谷地区 】



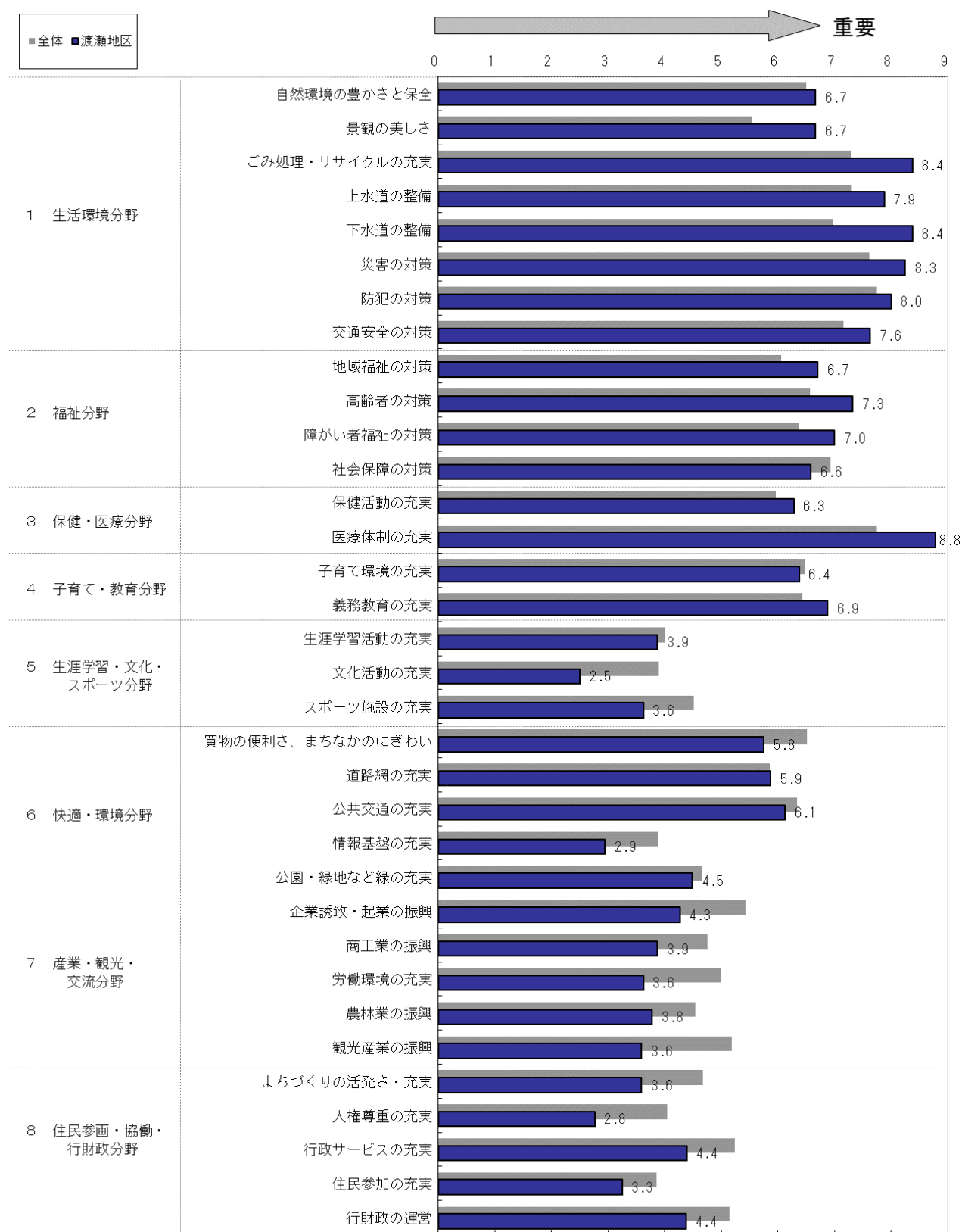
地区別の重要度（加重平均値）

【 多々良地区 】



地区別の重要度（加重平均値）

【 渡瀬地区 】



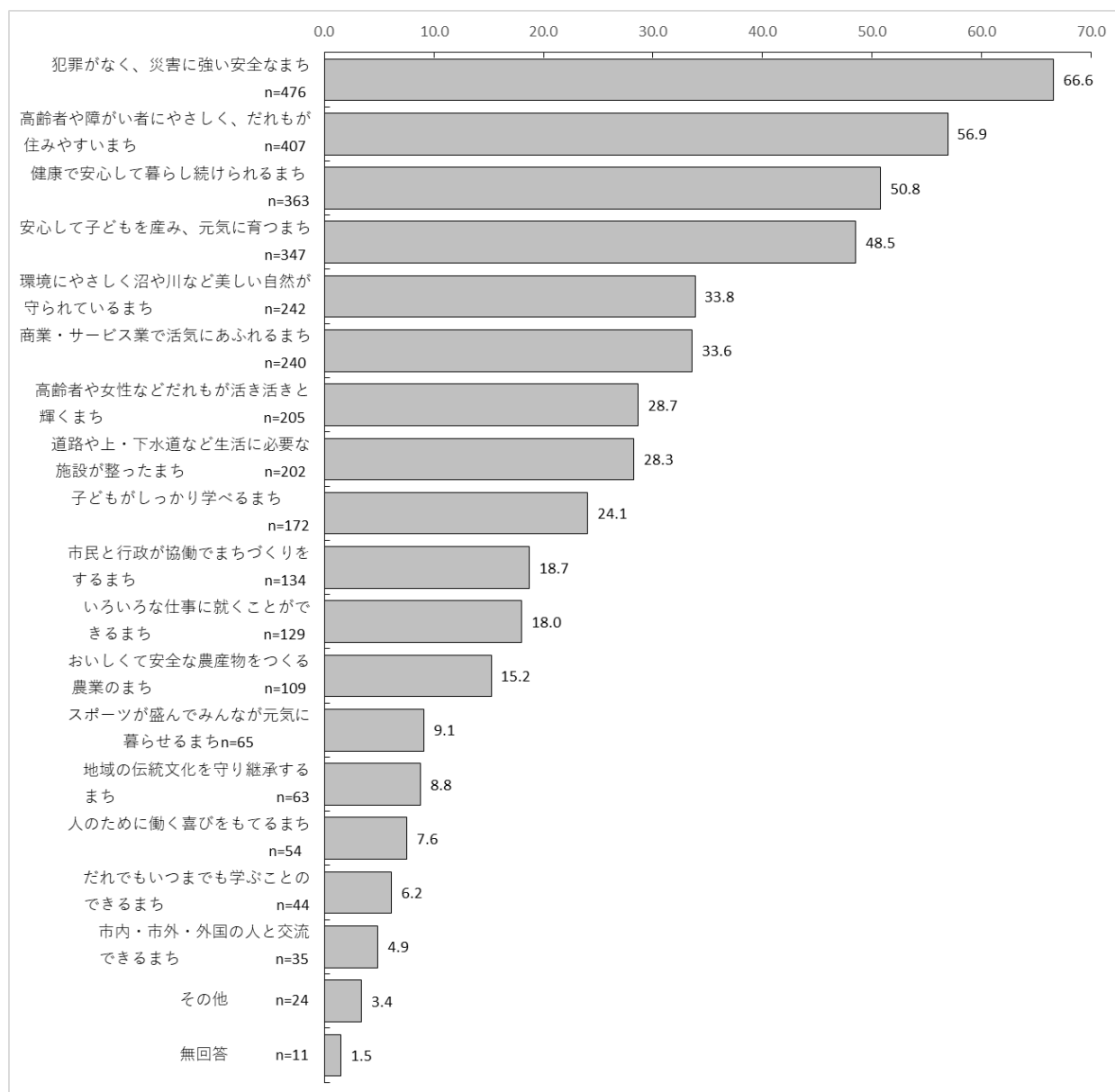
(4) 今後のまちづくりの方向性

問6 館林市の将来像について、今後どのようなまちづくりをめざしていきべきだと思いますか。あてはまる番号5つまでに○印をつけてください。(5つまでに○印)

【全体の傾向】

●「犯罪がなく、災害に強い安全なまち」、「だれもが住みやすいまち」、「健康で安心して暮らせるまち」への関心が高い

今後のまちづくりのめざすべき方向性についてたずねたところ、「犯罪がなく、災害に強い安全なまち」が66.6%と最も高く、次いで、「高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち」(56.9%) 「健康で安心して暮らし続けられるまち」(50.8%)の順となっています。



【属性別の傾向】

●20代では「安心して子どもを産み元気に育つまち」が第1位

属性による差がほとんどありませんが、「犯罪がなく、災害に強い安全なまち」が第1位でないのは、20歳代と農林水産業で、ともに第3位となっています。また、「おいしくて安全な農産物をつくる農業のまち」も、農林水産業の第3位となっています。

今後のまちづくりの方向性①

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位
全体		犯罪がなく、災害に強い安全なまち 66.6%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 56.9%	健康で安心して暮らし続けられるまち 50.8%
性別	男性	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 63.8%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 59.6%	健康で安心して暮らし続けられるまち 49.0%
	女性	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 68.7%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 54.5%	健康で安心して暮らし続けられるまち 52.4%
年齢別	10代	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 63.6%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち／安心して子どもを産み、元気に育つまち 54.5%	
	20代	安心して子どもを産み、元気に育つまち 70.5%	健康で安心して暮らし続けられるまち 52.3%	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 47.7%
	30代	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 69.0%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 67.6%	健康で安心して暮らし続けられるまち 50.7%
	40代	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 73.6%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 53.6%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 52.8%
	50代	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 66.7%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 57.4%	健康で安心して暮らし続けられるまち 54.3%
	60代	犯罪がなく、災害に強い安全なまち／高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 62.6%		健康で安心して暮らし続けられるまち 48.5%
	70歳以上	犯罪がなく、災害に強い安全なまち／高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 68.4%		健康で安心して暮らし続けられるまち 53.2%

今後のまちづくりの方向性②

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位
全体		犯罪がなく、災害に強い安全なまち 66.6%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 56.9%	健康で安心して暮らし続けられるまち 50.8%
居住年数別	5年未満	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 61.3%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 58.1%	環境にやさしく沼や川など美しい自然が守られているまち 45.2%
	5年以上10年未満	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 72.7%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 63.6%	健康で安心して暮らし続けられるまち 52.3%
	10年以上20年未満	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 67.1%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち／安心して子どもを産み、元気に育つまち 49.4%	
	20年以上	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 66.0%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 60.4%	健康で安心して暮らし続けられるまち 52.0%
職業別	農林水産業	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち／安心して子どもを産み、元気に育つまち 69.2%		犯罪がなく、災害に強い安全なまち／健康で安心して暮らし続けられるまち／おいしくて安全な農産物をつくる農業のまち 53.8%
	製造業・建設業	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 70.2%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 53.7%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 51.2%
	卸小売・飲食業	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 70.4%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 51.9%	商業・サービス業で活気にあふれるまち 48.1%
	その他サービス業等（公務員を含む）	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 60.0%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 58.6%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 49.7%
	パート・アルバイト	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 65.1%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 59.7%	健康で安心して暮らし続けられるまち 50.4%
	主婦・主夫	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 72.6%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 60.7%	健康で安心して暮らし続けられるまち 52.1%
	無職	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 65.6%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 63.9%	健康で安心して暮らし続けられるまち 59.0%
	学生、その他	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 67.6%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 52.9%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 50.0%

今後のまちづくりの方向性③

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位
全体		犯罪がなく、災害に強い安全なまち 66.6%	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 52.6%	健康で安心して暮らし続けられるまち 47.7%
	市内	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 61.2%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 57.3%	健康で安心して暮らし続けられるまち 48.8%
	市外	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 69.5%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 57.3%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 51.4%
	就学・勤務していない	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 69.3%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 58.2%	健康で安心して暮らし続けられるまち 56.1%
地区別	館林地区	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 65.3%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 52.5%	健康で安心して暮らし続けられるまち 50.0%
	郷谷地区	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 68.8%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 62.5%	健康で安心して暮らし続けられるまち 52.1%
	大島地区	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 65.5%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 62.1%	健康で安心して暮らし続けられるまち／安心して子どもを産み、元気に育つまち 44.8%
	赤羽地区	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 66.7%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 57.1%	健康で安心して暮らし続けられるまち／安心して子どもを産み、元気に育つまち 47.6%
	六郷地区	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 66.7%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 59.2%	健康で安心して暮らし続けられるまち 51.7%
	三野谷地区	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 70.8%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 66.7%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 54.2%
	多々良地区	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 66.5%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 55.0%	健康で安心して暮らし続けられるまち 51.8%
	渡瀬地区	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 61.9%	高齢者や障がい者にやさしく、だれもが住みやすいまち 59.5%	安心して子どもを産み、元気に育つまち 50.0%

6 協働のまちづくりについて

(1) 自助・共助の重要性・関わり方について

問7 今後、まちづくりを行っていく上で、自分で自分を助ける「自助※2」、お互いに助け合う「共助※3」の重要性や関わり方について、どのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。(それぞれの項目ごとに1つずつ○印)

① 自助

【全体の傾向】

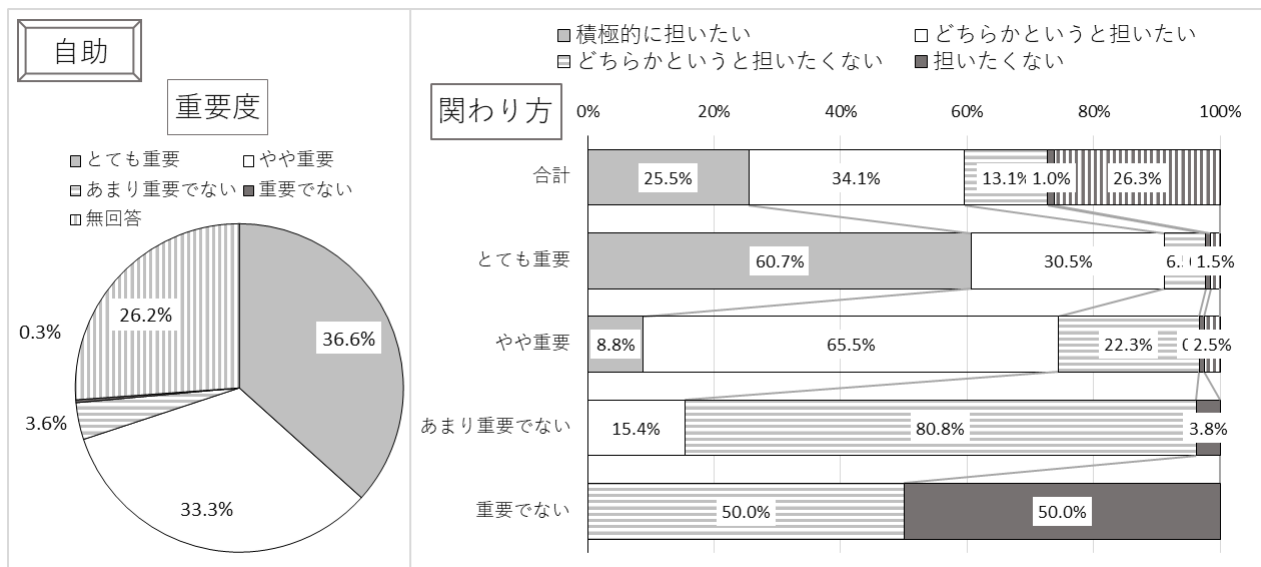
● “自助は重要” と考える市民は、約7割。担いたいの、約6割

「自助」の重要性について、「とても重要」は36.6%、「やや重要」は33.3%となっており、これらを合わせた“重要”は、69.9%となっています。

「自助」の関わり方について、「積極的に担いたい」は25.5%、「どちらかという担いたい」は34.1%となっており、これらを合わせた“担いたい”は、59.6%となっています。

また、「とても重要」と回答された方の9割以上、「やや重要」と回答された方の7割以上が“担いたい”と回答しています。

なお、“無回答”が、26%を超えています。



【属性別の傾向】

●10 歳代、20 歳代の約 7 割が“重要”で“担いたい”と認識している

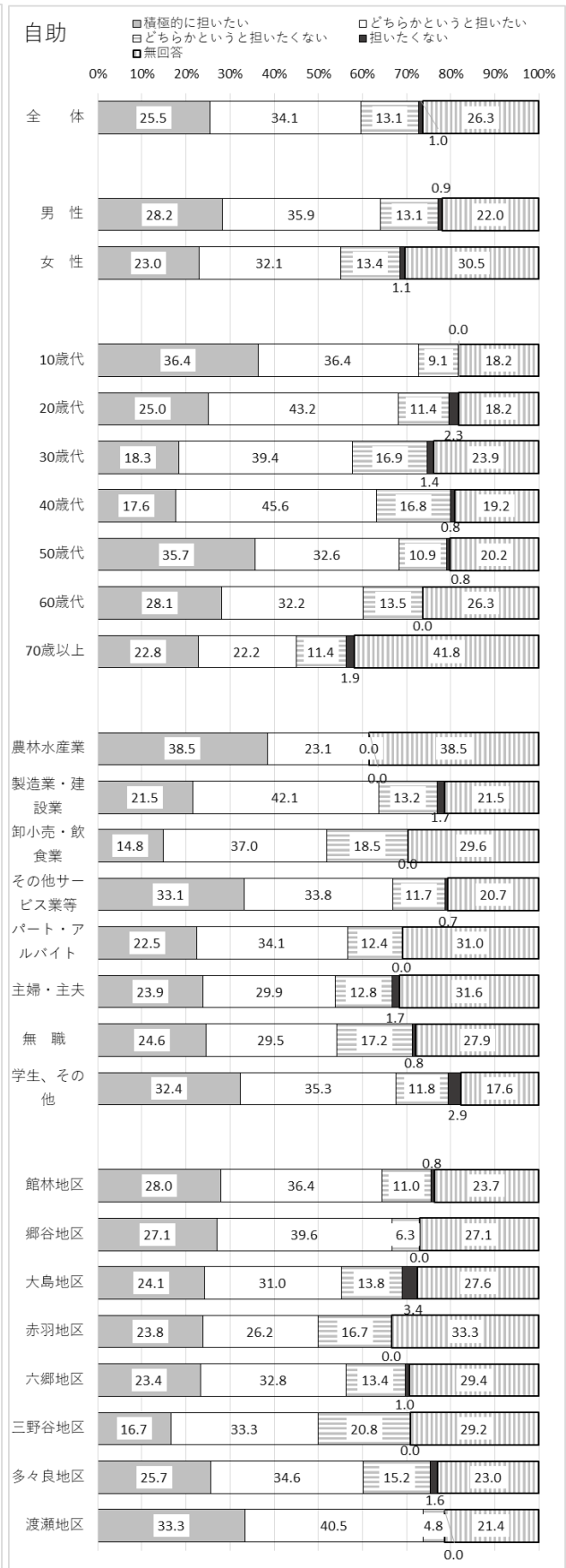
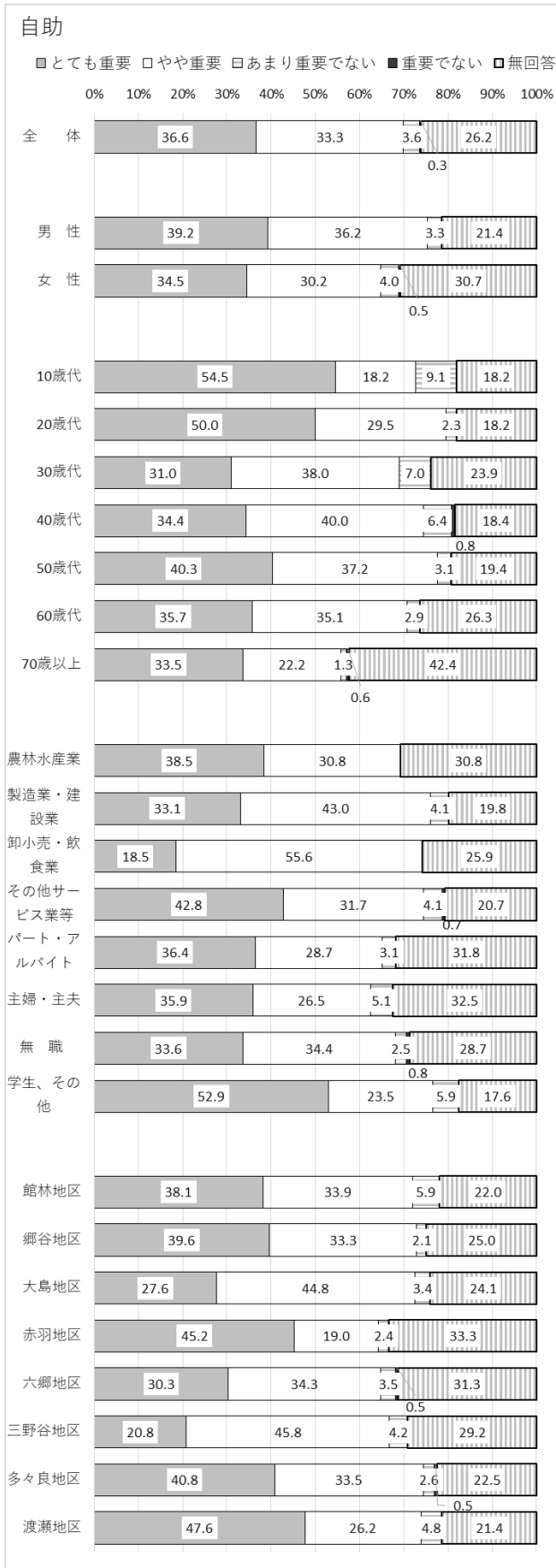
性別にみると、男性が女性よりも重要度が高く、“担いたい”の比率が高くなっています。

年齢別にみると、“重要”について、20 歳代が 79.5%で最も高く、“担いたい”は、10 歳代が 72.8%で最も高くなっており、70 歳以上がそれぞれ 55.7%、45.0%で最も低くなっています。

職業別にみると、学生、その他が“重要”、“担いたい”について、76.4%、67.7%で最も高くなっており、“重要”については、主婦・主夫が 62.4%で最も低く、“担いたい”については、卸小売・飲食業が 51.8%で最も低くなっています。

地区別でみると“重要”については、最高 74.3%、最低 64.2%でしたが、“担いたい”については、最高 73.8%、最低 50.0%となっています。

自助について



② 共助

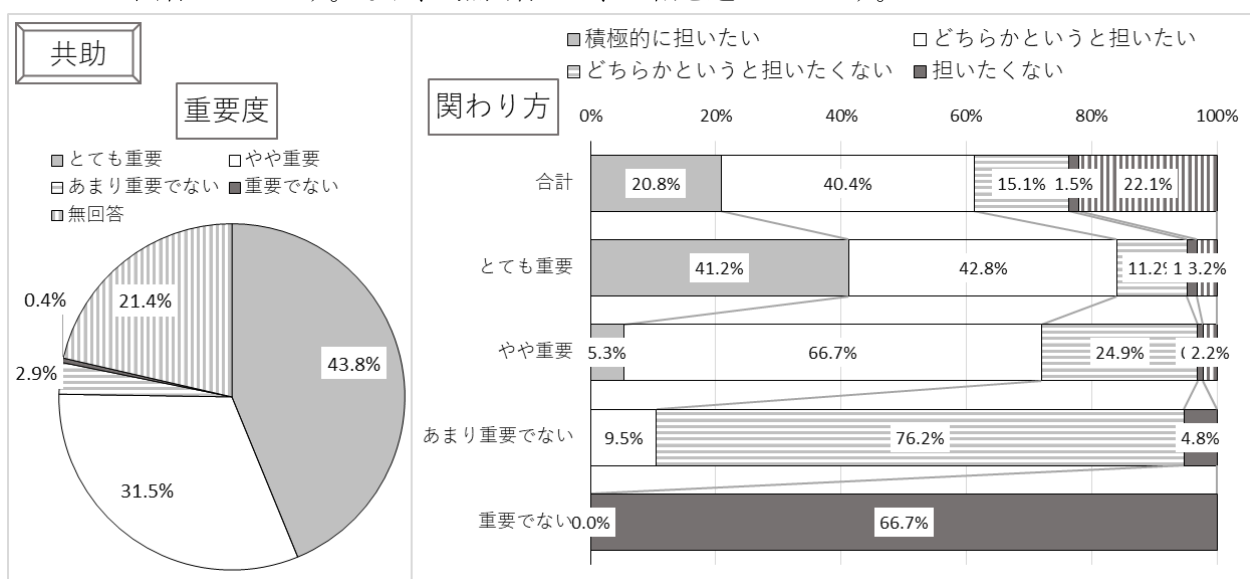
【全体の傾向】

● “共助は重要” と考える市民は、7割5分。担いたいの、約6割

「共助」の重要性について、「とても重要」は43.8%、「やや重要」は31.5%となっており、これらを合わせた“重要”は、75.3%となっています。

「共助」の関わり方について、「積極的に担いたい」は20.8%、「どちらかという担いたい」は40.4%となっており、これらを合わせた“担いたい”は、61.2%となっています。

また、「とても重要」と回答された方の約8割5分、「やや重要」と回答された方の7割以上が“担いたい”と回答しています。なお、“無回答”が、2割を超えています。



【属性別の傾向】

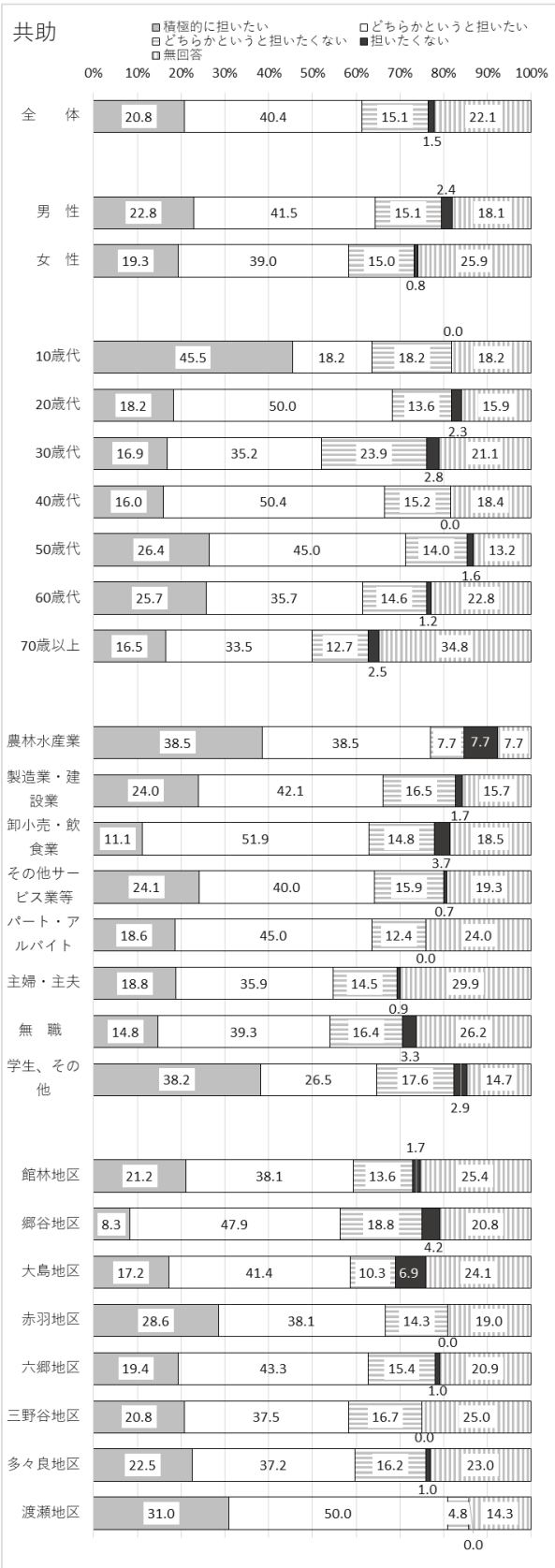
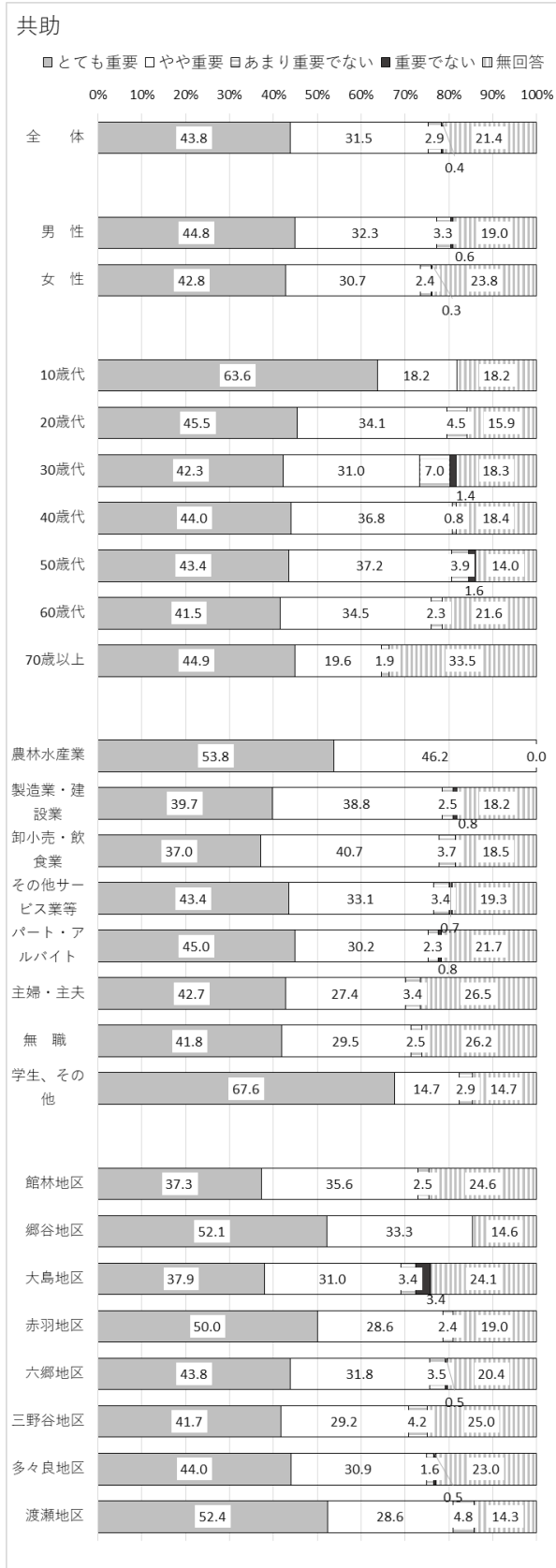
●10代・20代で「とても重要」が高い

性別にみると、男性が女性よりも重要度が高く、“担いたい”の比率が高くなっています。

年齢別にみると、“重要”について、10歳代が81.8%で最も高く、“担いたい”は、50歳代が71.4%で最も高くなっており、70歳以上がそれぞれ64.5%、50.0%で最も低くなっています。

職業別にみると、農林水産業が“重要”、“担いたい”について、100.0%、77.0%で最も高くなっており、“重要”については、主婦・主夫が70.1%で最も低く、“担いたい”については、無職が54.1%で最も低くなっています。

共助について



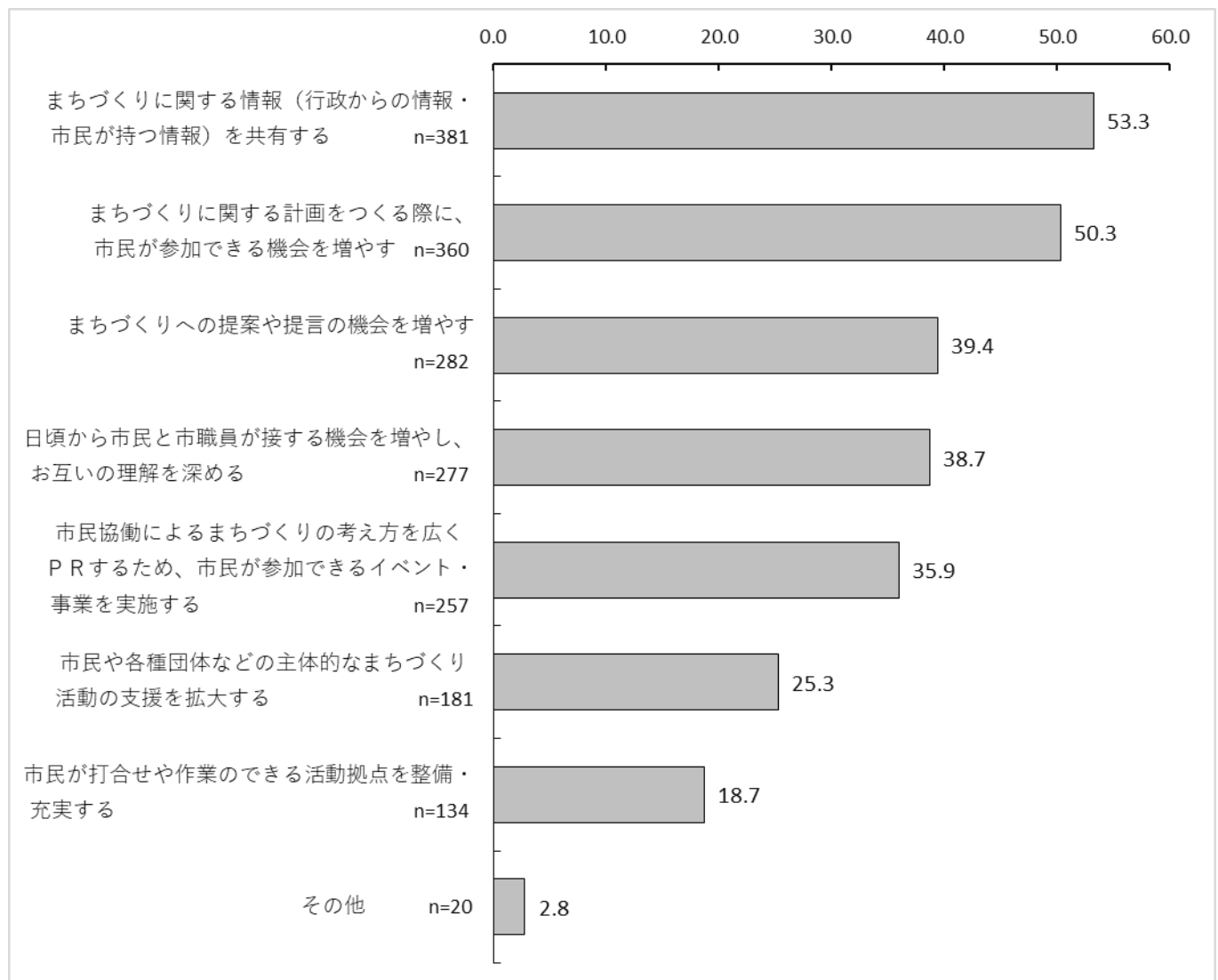
(2) まちづくりを推進する上で重要なこと

問8 今後、協働のまちづくりを推進する上で、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(該当するすべてに○印)

【全体の傾向】

●「情報の共有」「市民参加」「提案や提言の機会」を重要視

協働のまちづくりを推進する上で重要なこととして、「まちづくりに関する情報（行政からの情報・市民が持つ情報）を共有する」が53.3%と最も高く、次いで、「まちづくりに関する計画をつくる際に、市民が参加できる機会を増やす」（50.3%）、「1. まちづくりへの提案や提言の機会を増やす」（39.4%）となっています。



(3) まちづくり活動への参加状況と今後の参加意向

問9 あなたは、現在、どのようなまちづくりに参加されていますか。または、今後、どのようなまちづくりに参加したいですか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

(該当するすべてに○印)

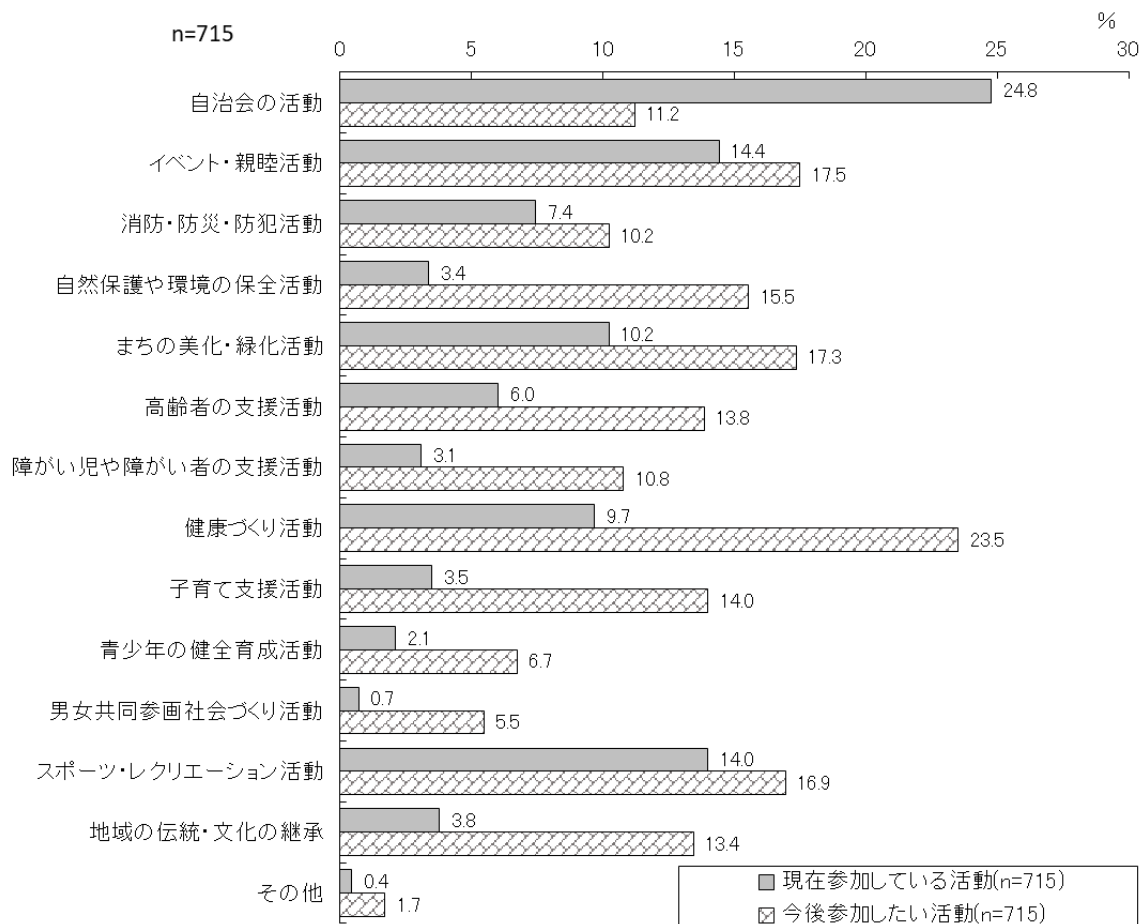
【全体の傾向】

●現在参加している活動は「自治会」、今後参加したい活動は「健康づくり」が多い

現在参加しているまちづくり活動は、「自治会の活動」が24.8%と最も高く、次いで、「イベント・親睦活動」(14.4%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(14.0%)、「まちの美化・緑化活動」(10.2%)、「健康づくり活動」(9.7%)の順となっています。

また、今後参加したい活動は、「健康づくり活動」が23.5%と最も高く、次いで、「イベント・親睦活動」(17.5%)、「まちの美化・緑化活動」(17.3%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(16.9%)、「自然保護や環境の保全活動」(15.5%)の順となっています。

なお、現在参加しているまちづくり活動の第1位「自治会の活動」は、今後参加したい活動では、9位で、11.2%、今後参加したい活動第5位の「自然保護や環境の保全活動」は、現在参加しているまちづくり活動では、第10位で、3.4%でした。



【属性別の傾向】

- 10 歳代では「イベント・親睦活動」20 歳代では、「スポーツ・レクリエーション活動」の参加が多く、希望も多い

《参加状況》

年齢別にみると、10 歳代と 30 歳代では「イベント・親睦活動」が最も高く、20 歳代では「スポーツ・レクリエーション活動」が最も高く、30 歳代以上では、「自治会の活動」が最も高くなっています。30 歳代は、「まちの美化・緑化活動」と合わせて 3 項目が第 1 位となっています。

《参加意向》

年齢別にみると、10 歳代・20 歳代では「イベント・親睦活動」が最も高く、30 歳代・40 歳代では「子育て支援活動」が最も高くなっています。また、50 歳代以上では、「健康づくり活動」が最も高くなっています。

まちづくり活動への参加状況・参加意向①

〈上位 3 位〉

			第 1 位	第 2 位	第 3 位
全体	参加状況	自治会の活動	24.8%	イベント・親睦活動 14.4%	スポーツ・レクリエーション活動 14.0%
	参加意向	健康づくり活動	23.5%	イベント・親睦活動 17.5%	まちの美化・緑化活動 17.3%
性別	男性	参加状況	自治会の活動 29.1%	スポーツ・レクリエーション活動 15.1%	イベント・親睦活動 14.2%
		参加意向	健康づくり活動 19.0%	まちの美化・緑化活動／自然保護や環境の保全活動 18.1%	
	女性	参加状況	自治会の活動 20.9%	イベント・親睦活動 14.4%	スポーツ・レクリエーション活動 13.1%
		参加意向	健康づくり活動 27.0%	イベント・親睦活動／スポーツ・レクリエーション活動 17.9%	

まちづくり活動への参加状況・参加意向②

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位	
全体	参加状況	自治会の活動 24.8%	イベント・親睦活動 14.4%	スポーツ・レクリエーション活動 14.0%	
	参加意向	健康づくり活動 23.5%	イベント・親睦活動 17.5%	まちの美化・緑化活動 17.3%	
年齢別	10代	参加状況	イベント・親睦活動 27.3%	スポーツ・レクリエーション活動／健康づくり活動 9.1%	
		参加意向	イベント・親睦活動 54.5%	自然保護や環境の保全活動 45.5%	まちの美化・緑化活動 36.4%
	20代	参加状況	スポーツ・レクリエーション活動 13.6%	イベント・親睦活動 11.4%	自治会の活動 6.8%
		参加意向	イベント・親睦活動／スポーツ・レクリエーション活動 27.3%	まちの美化・緑化活動／健康づくり活動／子育て支援活動／自然保護や環境の保全活動／障がい児や障がい者の支援活動 15.9%	
	30代	参加状況	イベント・親睦活動／まちの美化・緑化活動／自治会の活動 9.9%		
		参加意向	健康づくり活動／子育て支援活動 18.3%	スポーツ・レクリエーション活動 16.9%	
	40代	参加状況	自治会の活動 16.8%	イベント・親睦活動 10.4%	スポーツ・レクリエーション活動 7.2%
		参加意向	子育て支援活動 24.8%	イベント・親睦活動 21.6%	健康づくり活動 17.6%
	50代	参加状況	自治会の活動 40.3%	スポーツ・レクリエーション活動 14.7%	イベント・親睦活動 10.9%
		参加意向	健康づくり活動 24.8%	スポーツ・レクリエーション活動 21.7%	自治会の活動 17.8%
	60代	参加状況	自治会の活動 28.1%	スポーツ・レクリエーション活動 17.5%	イベント・親睦活動 15.2%
		参加意向	健康づくり活動 27.5%	イベント・親睦活動／まちの美化・緑化活動 19.3%	
	70歳以上	参加状況	自治会の活動 27.8%	健康づくり活動 24.7%	イベント・親睦活動 21.5%
		参加意向	健康づくり活動 25.9%	まちの美化・緑化活動 20.9%	自然保護や環境の保全活動 18.4%

まちづくり活動への参加状況・参加意向③

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位	
全体	参加状況	自治会の活動 24.8%	イベント・親睦活動 14.4%	スポーツ・レクリエーション活動 14.0%	
	参加意向	健康づくり活動 23.5%	イベント・親睦活動 17.5%	まちの美化・緑化活動 17.3%	
職業	農林水産業	参加状況	自治会の活動 46.2%	イベント・親睦活動 23.1%	スポーツ・レクリエーション活動 23.1%
		参加意向	自治会の活動 30.8%	イベント・親睦活動 23.1%	まちの美化・緑化活動／子育て支援活動／消防・防災・防犯活動／障がい児や障がい者の支援活動 15.4%
	製造業・建設業	参加状況	自治会の活動 22.3%	イベント・親睦活動 10.7%	スポーツ・レクリエーション活動／消防・防災・防犯活動 10.7%
		参加意向	スポーツ・レクリエーション活動 19.8%	まちの美化・緑化活動 18.2%	健康づくり活動 18.2%
	卸小売・飲食業	参加状況	自治会の活動 33.3%	イベント・親睦活動 14.8%	スポーツ・レクリエーション活動 11.1%
		参加意向	高齢者の支援活動 22.2%	スポーツ・レクリエーション活動 14.8%	健康づくり活動 14.8%
	その他サービス業等 (公務員を含む)	参加状況	自治会の活動 22.1%	スポーツ・レクリエーション活動 13.1%	まちの美化・緑化活動 9.7%
		参加意向	健康づくり活動 24.8%	イベント・親睦活動 22.1%	スポーツ・レクリエーション活動 18.6%
	パート・アルバイト	参加状況	自治会の活動 28.7%	イベント・親睦活動 15.5%	スポーツ・レクリエーション活動 11.6%
		参加意向	健康づくり活動 28.7%	スポーツ・レクリエーション活動 22.5%	イベント・親睦活動 20.9%
	主婦・主夫	参加状況	自治会の活動 24.8%	イベント・親睦活動 22.2%	健康づくり活動 21.4%
		参加意向	健康づくり活動 23.9%	イベント・親睦活動 17.9%	まちの美化・緑化活動 17.9%
	無職	参加状況	自治会の活動 27.9%	イベント・親睦活動 18.9%	スポーツ・レクリエーション活動 18.0%
		参加意向	健康づくり活動 21.3%	まちの美化・緑化活動 19.7%	自然保護や環境の保全活動 17.2%
	学生、その他	参加状況	イベント・親睦活動 8.8%	スポーツ・レクリエーション活動 8.8%	健康づくり活動 2.9%
		参加意向	イベント・親睦活動 32.4%	健康づくり活動 32.4%	まちの美化・緑化活動／消防・防災・防犯活動 29.4%

まちづくり活動への参加状況・参加意向④

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位	
全体	参加状況	自治会の活動 24.8%	イベント・親睦活動 14.4%	スポーツ・レクリエーション活動 14.0%	
	参加意向	健康づくり活動 23.5%	イベント・親睦活動 17.5%	まちの美化・緑化活動 17.3%	
就学・勤務先別	市内	参加状況	自治会の活動 25.8%	イベント・親睦活動 13.5%	スポーツ・レクリエーション活動 13.1%
		参加意向	健康づくり活動 26.9%	イベント・親睦活動 18.5%	スポーツ・レクリエーション活動 18.1%
	市外	参加状況	自治会の活動 21.8%	スポーツ・レクリエーション活動 10.5%	イベント・親睦活動 8.6%
		参加意向	イベント・親睦活動 22.3%	健康づくり活動 20.9%	スポーツ・レクリエーション活動 20.5%
	就学・勤務していない	参加状況	自治会の活動 27.5%	イベント・親睦活動／健康づくり活動 22.2%	
		参加意向	健康づくり活動 21.2%	まちの美化・緑化活動 17.5%	自然保護や環境の保全活動 14.8%
居住年数別	5年未満	参加状況	イベント・親睦活動／自治会の活動 16.1%		まちの美化・緑化活動／子育て支援活動 9.7%
		参加意向	イベント・親睦活動 22.6%	まちの美化・緑化活動／自然保護や環境の保全活動 19.4%	
	5年以上10年未満	参加状況	スポーツ・レクリエーション活動／自治会の活動 18.2%		イベント・親睦活動／健康づくり活動 13.6%
		参加意向	イベント・親睦活動／健康づくり活動／自然保護や環境の保全活動 18.2%		
	10年以上20年未満	参加状況	自治会の活動 17.6%	イベント・親睦活動 12.9%	まちの美化・緑化活動 4.7%
		参加意向	健康づくり活動 23.5%	イベント・親睦活動 22.4%	スポーツ・レクリエーション活動 18.8%
	20年以上	参加状況	自治会の活動 26.9%	スポーツ・レクリエーション活動 16.2%	イベント・親睦活動 14.5%
		参加意向	健康づくり活動 24.4%	スポーツ・レクリエーション活動／まちの美化・緑化活動 17.5%	

まちづくり活動への参加状況・参加意向⑤

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位	
全体	参加状況	自治会の活動 24.8%	イベント・親睦活動 14.4%	スポーツ・レクリエーション活動 14.0%	
	参加意向	健康づくり活動 23.5%	イベント・親睦活動 17.5%	まちの美化・緑化活動 17.3%	
地区別	館林地区	参加状況	自治会の活動 28.0%	イベント・親睦活動 18.6%	スポーツ・レクリエーション活動 17.8%
		参加意向	健康づくり活動 22.0%	イベント・親睦活動 20.3%	スポーツ・レクリエーション活動／まちの美化・緑化活動 16.9%
	郷谷地区	参加状況	自治会の活動 20.8%	まちの美化・緑化活動 16.7%	スポーツ・レクリエーション活動 10.4%
		参加意向	まちの美化・緑化活動 25.0%	イベント・親睦活動 18.8%	スポーツ・レクリエーション活動 16.7%
	大島地区	参加状況	自治会の活動 27.6%	スポーツ・レクリエーション活動 20.7%	まちの美化・緑化活動 13.8%
		参加意向	健康づくり活動／高齢者の支援活動／障がい児や障がい者の支援活動 24.1%		
	赤羽地区	参加状況	自治会の活動 26.2%	イベント・親睦活動 19.0%	健康づくり活動／自治会の活動／自然保護や環境の保全活動 16.7%
		参加意向	イベント・親睦活動／まちの美化・緑化活動 21.4%		
	六郷地区	参加状況	自治会の活動 18.9%	イベント・親睦活動 13.4%	スポーツ・レクリエーション活動 11.9%
		参加意向	健康づくり活動 29.9%	スポーツ・レクリエーション活動 22.4%	自然保護や環境の保全活動 19.9%
	三野谷地区	参加状況	自治会の活動 25.0%	イベント・親睦活動／まちの美化・緑化活動 20.8%	
		参加意向	健康づくり活動 25.0%	まちの美化・緑化活動 20.8%	自治会の活動／自然保護や環境の保全活動／消防・防災・防犯活動 16.7%
	多々良地区	参加状況	自治会の活動 27.7%	スポーツ・レクリエーション活動 14.7%	イベント・親睦活動 13.6%
		参加意向	健康づくり活動 20.4%	まちの美化・緑化活動 15.2%	イベント・親睦活動 14.7%
	渡瀬地区	参加状況	自治会の活動 33.3%	スポーツ・レクリエーション活動 19.0%	イベント・親睦活動 16.7%
		参加意向	イベント・親睦活動 35.7%	高齢者の支援活動／自治会の活動 23.8%	

(4) 地域が主体となって取り組む活動

問 10 下表に示す活動を、地域（隣組や各区など）で取り組むことについて、どのように思いますか。活動の項目ごとに、あてはまる番号1つに○印をつけてください。その他に考えられる活動があれば「12. その他」に活動内容をご記入いただき、あてはまる番号1つに○印をつけてください。（それぞれの活動の項目ごとに1つずつに○印）

※加重平均値の算出方法

3段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left[\begin{array}{l} \text{「地域が主体となって取り組むべき」の回答数} \times 10 \text{点} \\ \text{「地域で取り組める可能性がある」の回答数} \times 5 \text{点} \\ \text{「地域で取り組むことが困難」の回答数} \times 0 \text{点} \end{array} \right]}{\text{「地域が主体となって取り組むべき」、「地域で取り組める可能性がある」、「地域で取り組むことが困難」の回答数の合計}}$$

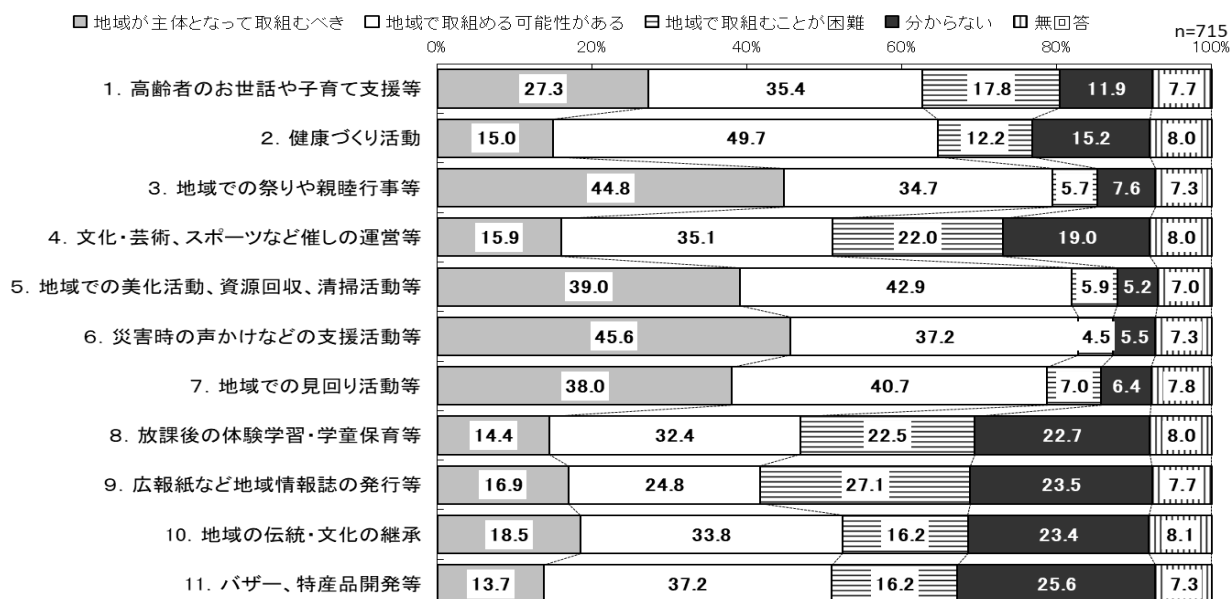
この算出方法により、評価点は0点～10点の間に分布し、中間点の5点を境に、10点に近くなるほど地域で取り組むべきとの認識が高くなり、逆に0点に近くなるほど低くなる。

【全体の傾向】

●地域が主体となって取り組むべき活動は「災害時の声かけ等」が最も多い

各種のまちづくり活動を地域で取り組める可能性についてたずねたところ、「地域が主体となって取り組むべき」の項目では、「6. 災害時の声かけなどの支援活動等」を選択した方が45.6%と最も高く、次いで、「3. 地域での祭りや親睦行事等」（44.8%）、「5. 地域での美化活動、資源回収、清掃活動等」（39.0%）の順となっています。

また、「地域で取り組める可能性がある」の項目では、「2. 健康づくり活動」を選択した方が49.7%と最も高く、次いで、「5. 地域での美化活動、資源回収、清掃活動等」（42.9%）、「7. 地域での見回り活動等」（40.7%）の順となっています。



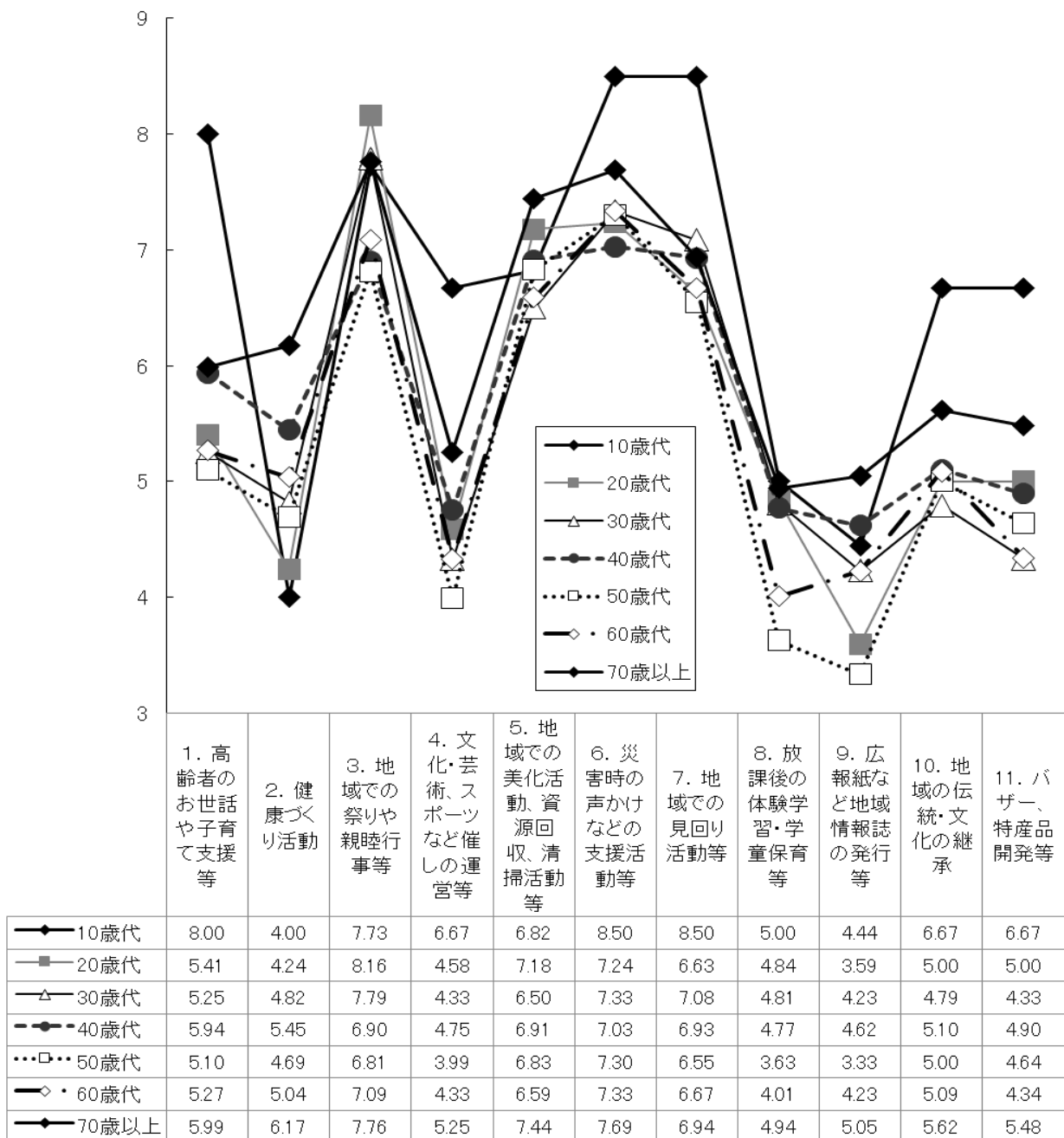
【属性別の傾向】

●若い世代で地域行事へ取り組むべきという意見が多い

点数化集計については、点数が高いほど地域で取り組める余地が大きいことを示しています。

年齢別にみると、「3 地域でのまつりや親睦行事等」が、20 歳代・30 歳代・70 歳以上で第 1 位となっており、10 歳代と 40 歳代では、第 3 位までに入っておらず、10 歳代では、「1. 高齢者のお世話や子育て支援等」が第 3 位となっています。

地域が主体となって取り組む活動（年齢別／点数化）



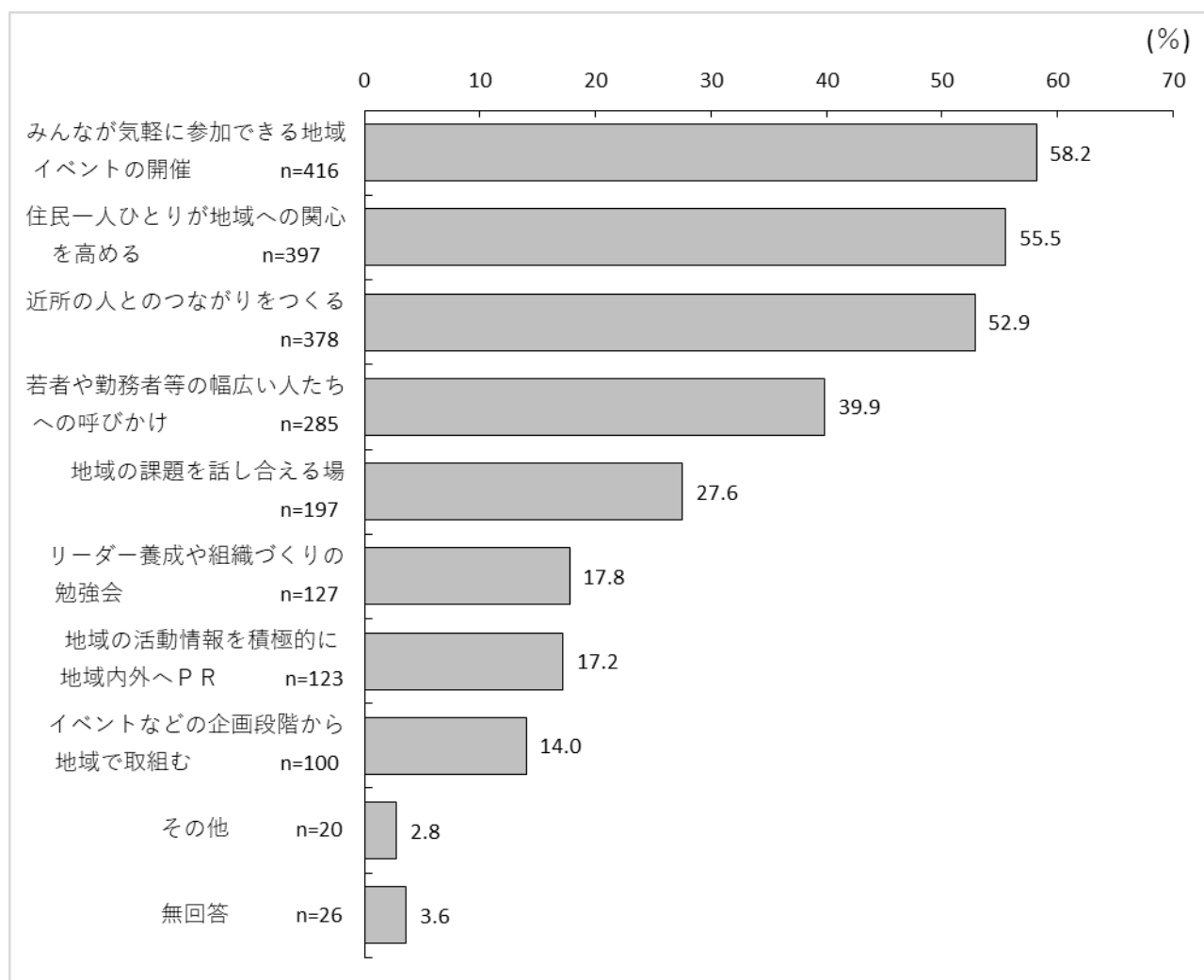
(5) 地域の活動を活発にするために必要なこと

問 11 あなたは、地域（町内会や各区など）の活動をより活発にするためには、主に何が必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。（該当するすべてに○印）

【全体の傾向】

●地域の活動を活発にするために必要なことは、「地域イベント」が最も多い

「みんなが気軽に参加できる地域イベントの開催」が 58.2%と最も高く、次いで、「住民一人ひとりが地域への関心を高める」(55.5%)、「近所の人とのつながりをつくる」(52.9%) の順となっています。



(6) まちづくりを進めていく上での要望・意見

◎ 館林市のこれからの見据えたまちづくりを進めていく上で、行政に望むことやご意見などがございましたら、お聞かせください。

行政に望むことや意見などについて自由記入方式でたずねたところ、244件の意見が寄せられました。「〈行政〉に関すること」が47件と最も多く、次いで「〈交通〉に関すること」(24件)、「〈インフラ〉に関すること」(23件)の順となっています。

意 見	件 数
〈行政〉に関すること 市民と行政のふれあいの場。市の政策がわからない。市政と一般市民の接点がない。経費を節約してほしい。偏りのない館林を望む。等	47
〈交通〉に関すること バスの運行・公共交通機関の充実。車社会。免許書返納後の不安。等	24
〈インフラ〉に関すること 街灯の増設。道路の整備・拡張。電線の地中化。上下水道料金。等	23
〈高齢者・障がい者〉に関すること 高齢者施設の充実。障害者福祉の充実。独居老人や空き家。問6-1の内容含む等	22
〈子ども・子育て〉に関すること 高齢者より子ども世代。子どもがゆっくり遊べる場所。子育ての支援が少ない。等	19
〈活性化〉に関すること 駅前の活性化。旧市街の空洞化。目玉行事がない。魅力的なところがない。等	17
〈医療〉に関すること 医療機関・体制の充実。産科・小児医療の充実。等	17
〈企業誘致〉に関すること 税収増・人口増。商業施設（ショッピングモール・スーパー銭湯）の誘致。等	17
〈まちづくり〉に関すること 地味な町。もっと素晴らしい町にしてほしい。先進的な行政およびまちづくり。等	11
〈PR〉に関すること 市のPR推進。イベント情報のネット告知。地域情報へのアクセスツール不足。等	10
〈イベント〉に関すること 館林に人が集まるイベント開催。国際的なイベントを。等	8
〈ゴミ〉に関すること 資源ごみの回収。不法投棄。ごみの散乱。等	7
〈施設〉に関すること 老若男女問わず遊べる施設、健康ランド、墓場が欲しい。等	5
〈その他〉 自治会長の負担軽減。自然遺産を守る。アンケート対象者について。等	17
計	244

Ⅱ 中学生アンケート調査結果

1 調査概要

(1) 調査目的

館林市総合計画の検証・見直しを行うにあたり、市民の意識を調査するために、市内の中学校の2年生全員を対象に、館林市のイメージや今後のまちづくりの方向性を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査方法

調査の対象	市内の中学2年生
調査方法	各学校を通じての配布・回収
調査時期	令和元年5月

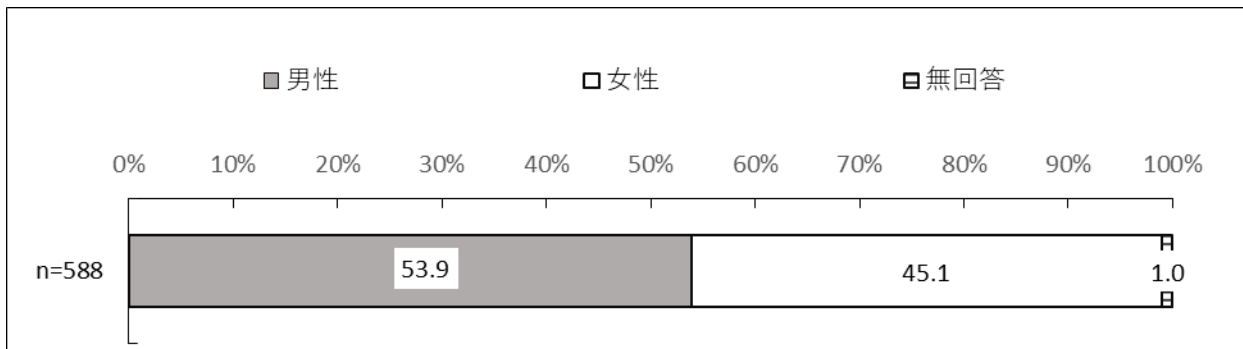
(3) 有効回収数

有効回収数	588
-------	-----

2 回答者の属性

(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が53.9%、「女性」が45.1%となっています。



3 館林市のイメージ

(1) イメージ評価

問2 今の館林市のイメージについて、あなたはどのように思いますか。(項目ごとに1つに○印)

【全体の傾向】

●「祭りや地域の伝統が大切にされている」が高評価で、“そう思う”が50%以下は3項目のみ

今の館林市のイメージをたずねたところ、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた“そう思う”では、「12 昔からあるお祭りなど地域の伝統が大切にされている」が84.9%と最も高く、次いで、「3 心も体も健康で暮らすことができる」(79.2%)、「17 米や野菜を作るなど農業が盛んである」(74.8%)、「14 スポーツをしている人が多い」(74.7%)の順となっています。

“そう思う”が、50%を下回っているのは、「16 観光する所が多く観光客が多い」(35.4%)、「19 工場が多く働くところがある」(42.3%)、「6 障がいを持つ人や生活の苦しい人が暮らしやすい」(48.6%)となっています。

今の館林市のイメージ



(2) 点数化による分析

※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「そう思う」の回答数} \times 10 \text{ 点} \\ \text{「ややそう思う」の回答数} \times 5 \text{ 点} \\ \text{「どちらともいえない」の回答数} \times 0 \text{ 点} \\ \text{「あまりそう思わない」の回答数} \times -5 \text{ 点} \\ \text{「そう思わない」の回答数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「そう思う」、「ややそう思う」、} \\ \text{「どちらともいえない」、「あまり} \\ \text{そう思わない」、「そう思わな} \\ \text{い」の回答数の合計} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高くなり、逆に-10点に近くなるほど評価が低くなる。

【全体の傾向】

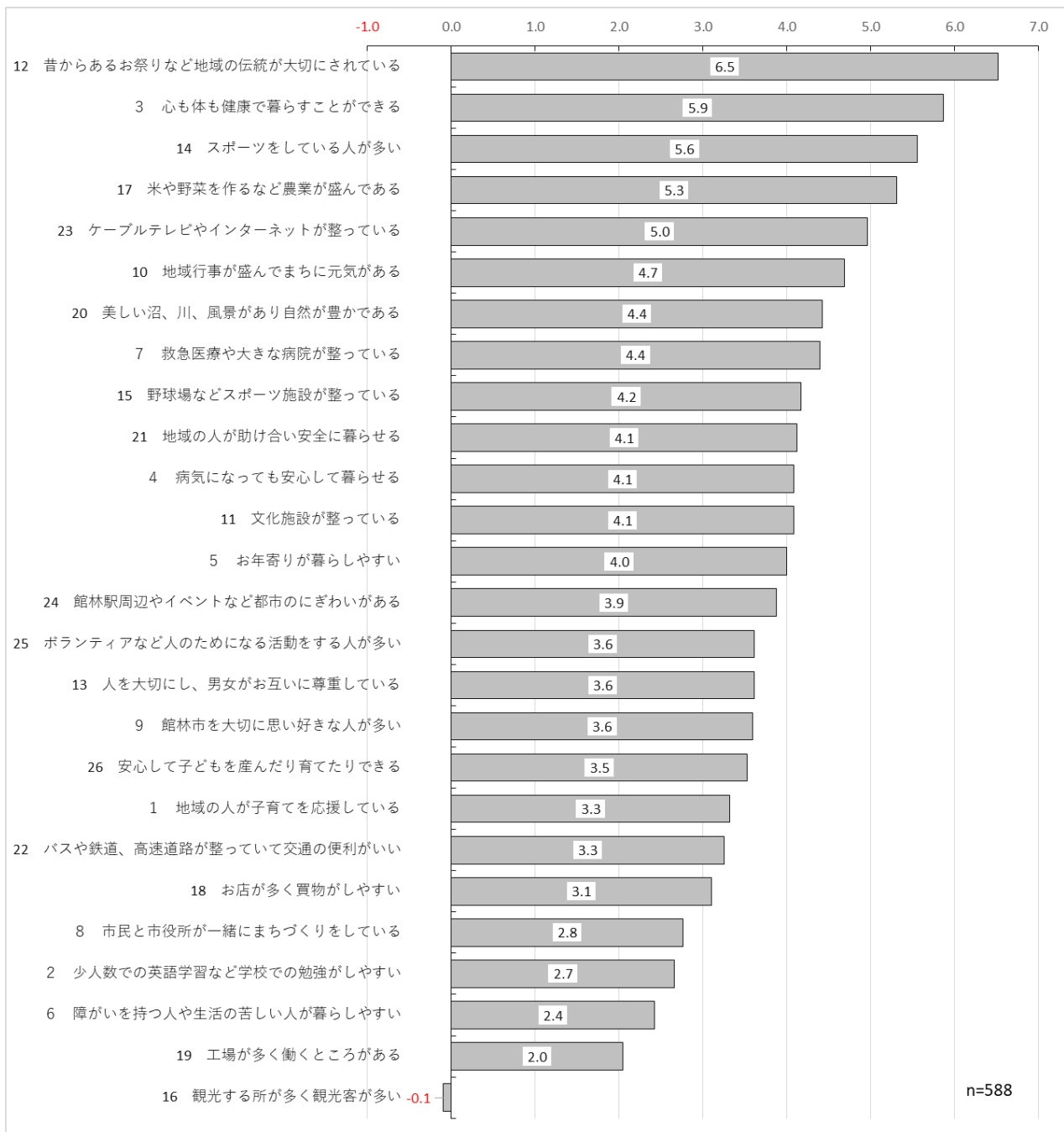
- 「観光する所が多い」「工場が多く働くところがある」「障がいを持つ人や生活の苦しい人が暮らしやすい」が低評価

上記の方法で各選択肢を点数化して平均点を算出したところ、「12 昔からあるお祭りなど地域の伝統が大切にされている」が6.5点と最も高く、次いで、「3 心も体も健康で暮らすことができる」(5.9点)、「14 スポーツをしている人が多い」(5.6点)の順となっています。

一方、「16 観光する所が多く観光客が多い」が-0.1と最も低く唯一マイナスの評価となっています。

次いで、「19 工場が多く働くところがある」(2.0点)、「6 障がいを持つ人や生活の苦しい人が暮らしやすい」(2.4点)の順となっており、「そう思う」の順位とあまり変わりありません。

今の館林市のイメージ（加重平均値）



4 愛着度・定住意向について

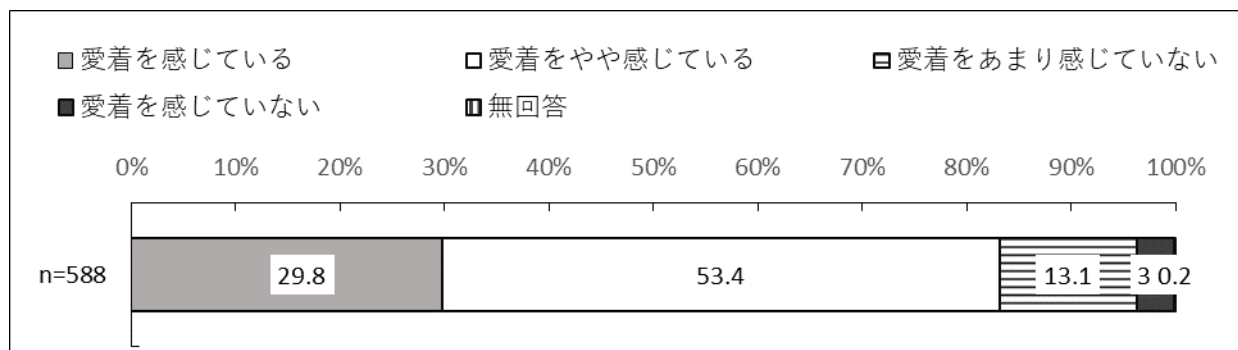
(1) まちへの愛着度について

問3 あなたは、館林市にどの程度、愛着を感じていますか。(1つに○印)

【全体の傾向】

● “愛着がある” 学生が8割超

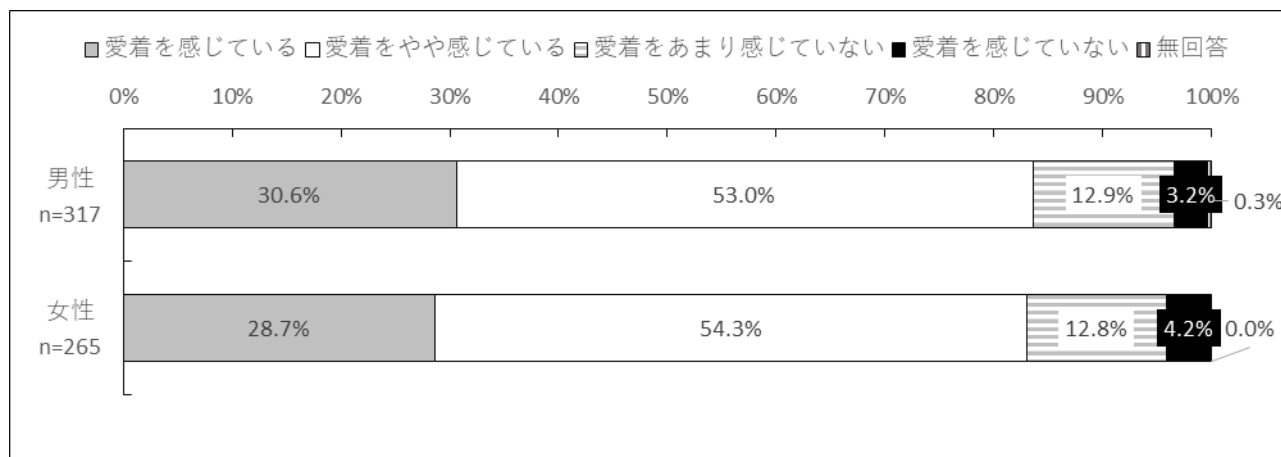
館林市への愛着度をたずねたところ、「愛着を感じている」(29.8%)と「愛着をやや感じている」(53.4%)を合わせた“愛着がある”は83.2%と8割超となっています。一方で、「愛着を感じていない」(3.6%)、「愛着をあまり感じていない」(13.1%)を合わせた“愛着がない”は16.7%となっています。



【属性別の傾向】

●男女間に差は、ない

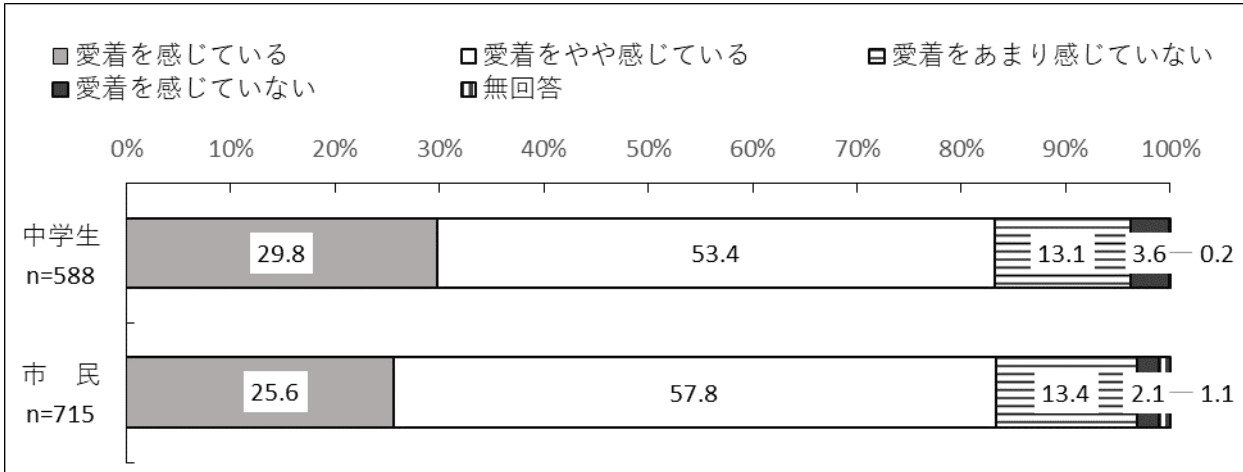
男女別にみると、“愛着がある”は、男子で83.6%、女子で83.0%となっており、男女間に差はみられませんでした。



【『市民アンケート調査結果』との比較】

●中学生と市民にも差は、ない

同様の設問を設定した『市民アンケート調査結果』と比較すると、“愛着がある”は中学生 83.2%、市民 83.4%と中学生と市民の間にはあまり差が見られませんでした。



(2) 今後の定住意向について

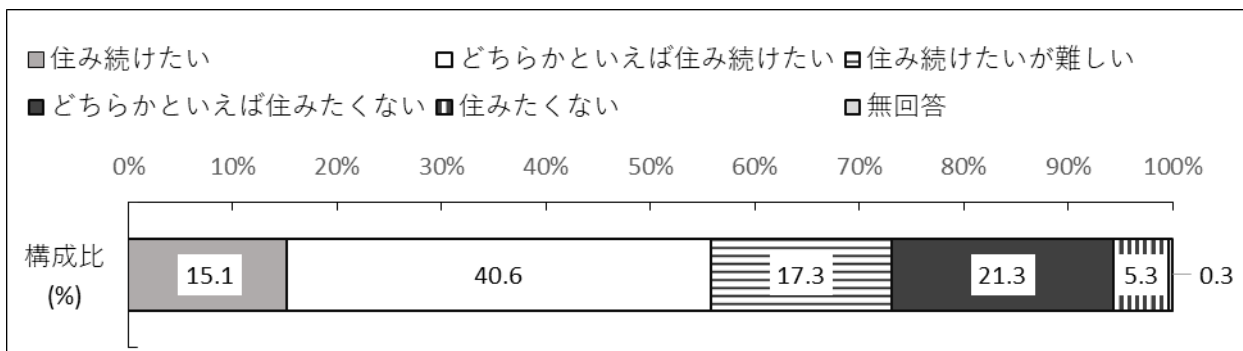
問4 あなたは、将来も館林市に住みたいですか。(1つに○印)

【全体の傾向】

●「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた“定住希望がある”が約6割

将来の定住意向をたずねたところ、「住み続けたい」(15.1%)と「どちらかといえば住み続けたい」(40.6%)を合わせた“定住希望がある”は、55.7%となっています。

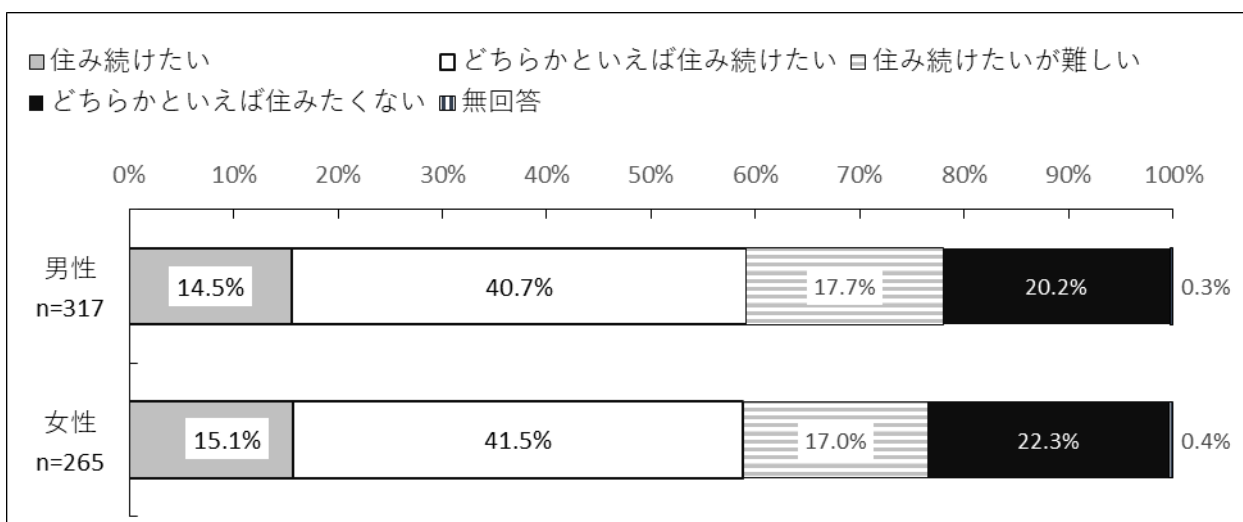
一方で「住みたくない」(5.3%)と「どちらかといえば住みたくない」(21.3%)を合わせた“定住希望がない”は、26.6%となっています。



【属性別の傾向】

●男女間に差は、ない

性別にみると、“定住希望がある”では、男子が55.2%、女子が56.6%となっており、男女間に差はみられませんでした。

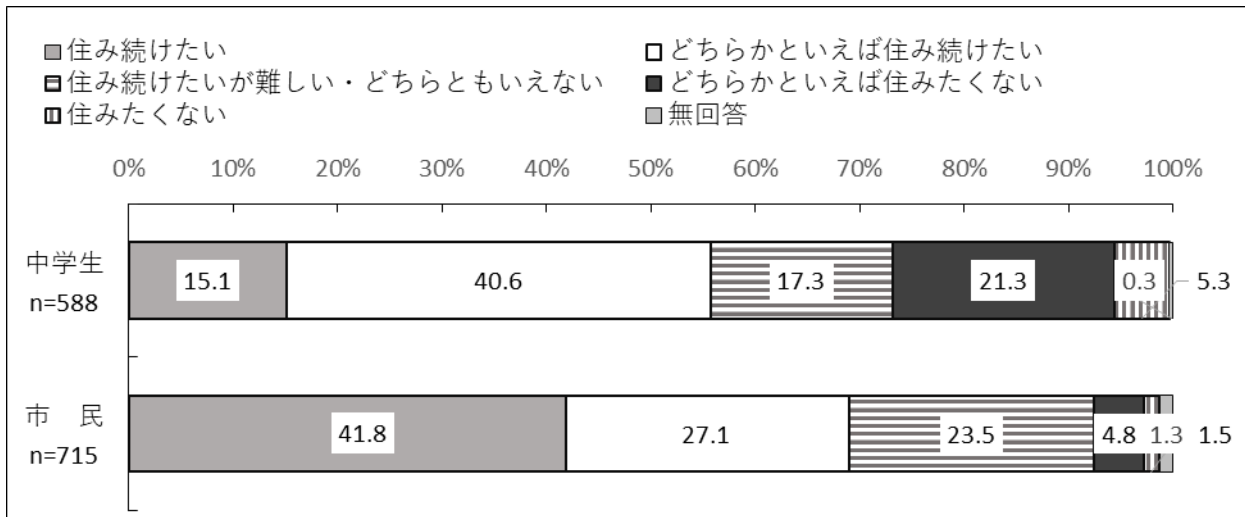


【『市民アンケート調査結果』との比較】

●市民と比べて、中学生の「住み続けたい」が少ない

同様の設問を設定した『市民アンケート調査結果』と比較すると、「住み続けたいが難しい」の選択肢が市民では、「どちらともいえない」となっているものの、“定住希望がある”では、中学生 55.7、市民 68.9%、「住み続けたい」では、中学生 15.1%、市民 41.8%と市民が大幅に上回る結果となっています。

これから進学や就職を控える中学生と、既に館林市で生活を定着させている市民では、結果に大きな違いがみられます。



中学生アンケートの「住み続けたいが難しい」が、市民アンケートでは、「どちらともいえない」の選択肢となっています。

(3) 住みたい理由

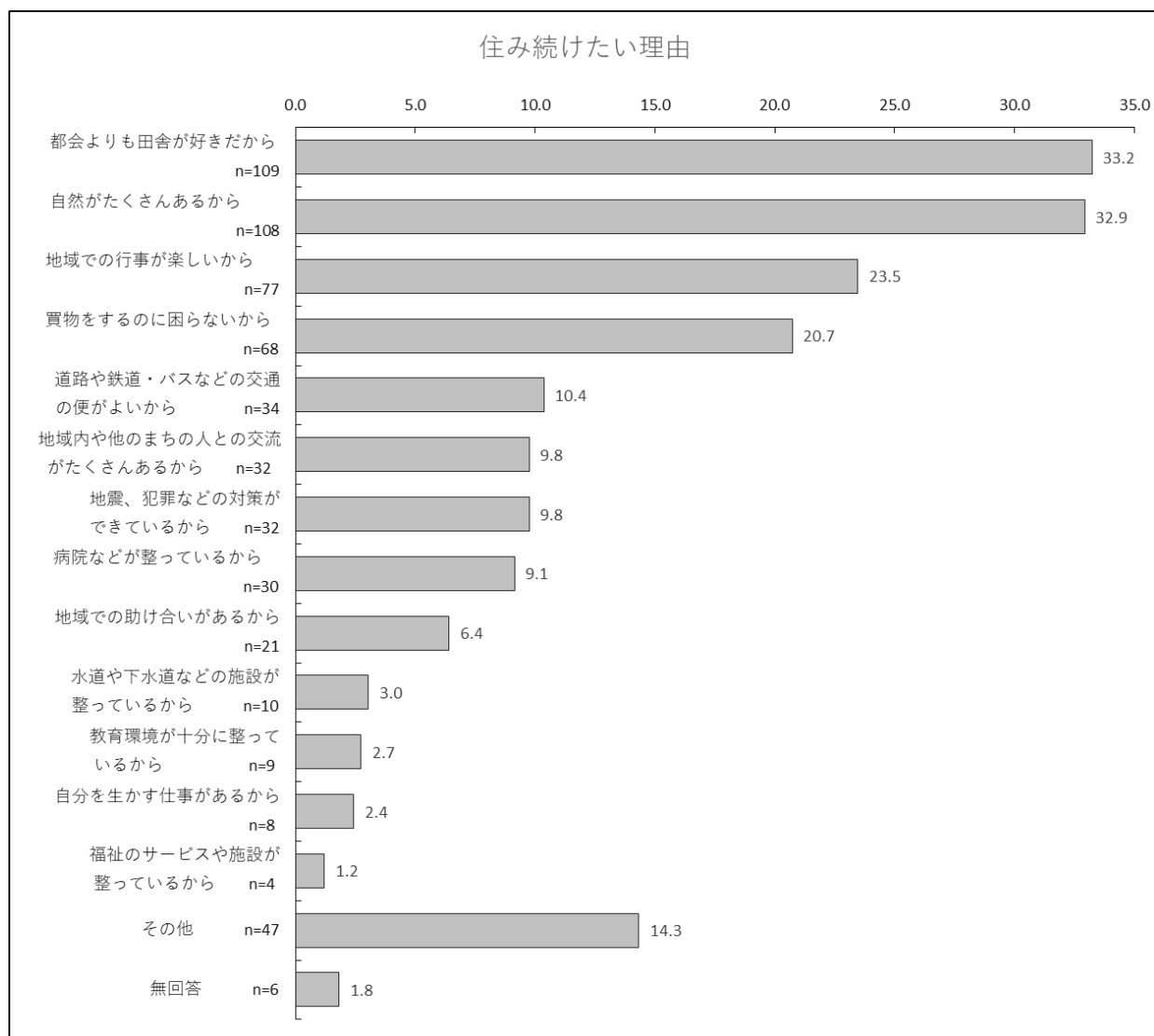
問4-1 あなたが住みたいと思う理由は何ですか。(2つまで○印)

【全体の傾向】

●住みたい理由は「都会より田舎が好き」、「自然」、「地域行事が楽しい」

「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した328人にその理由をたずねたところ、「都会よりも田舎が好きだから」が33.2%と最も高く、次いで、「自然がたくさんあるから」(32.9%)、「地域での行事が楽しいから」(23.5%)の順となっています。

(「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と回答した人のみ・全体/複数回答)



【属性別の傾向】

性別で見ると、男性と比べて、女性では「都会よりも田舎が好きだから」が高く、「自然がたくさんあるから」が少なくなっています。

住み続けたい理由

(「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と回答した人のみ・全体・性別・／複数回答)

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位
全体		都会よりも田舎が好きだから 33.2%	自然がたくさんあるから 32.9%	地域での行事が楽しいから 23.5%
性別	男性	自然がたくさんあるから 38.9%	都会よりも田舎が好きだから 36.6%	買い物をするのに困らないから 18.9%
	女性	都会よりも田舎が好きだから 30.0%	地域での行事が楽しいから 29.3%	自然がたくさんあるから 26.7%

(4) 住みたくない理由

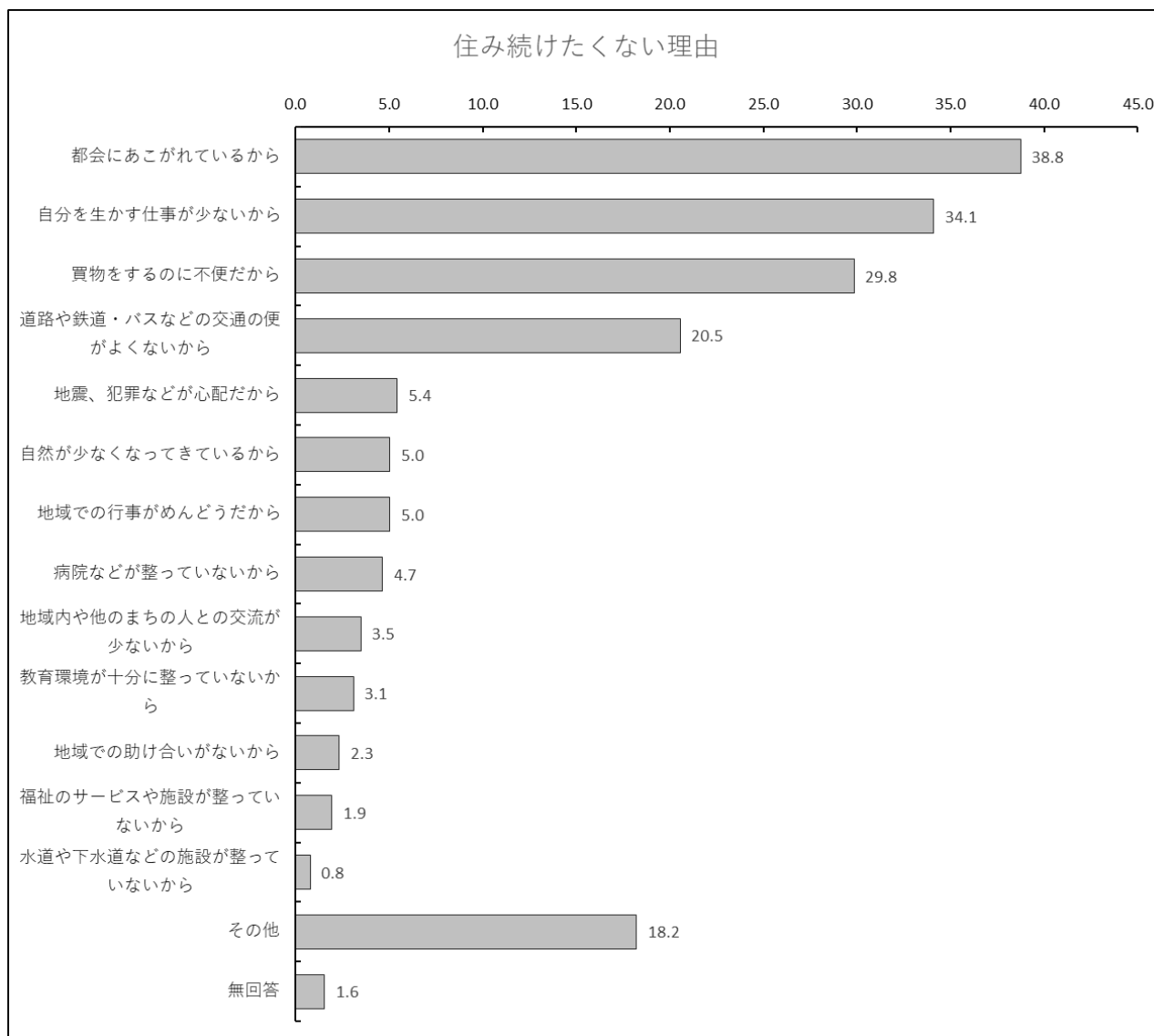
問4-2 あなたが住みたくないと思う理由は何ですか。(2つまで○印)

【全体の傾向】

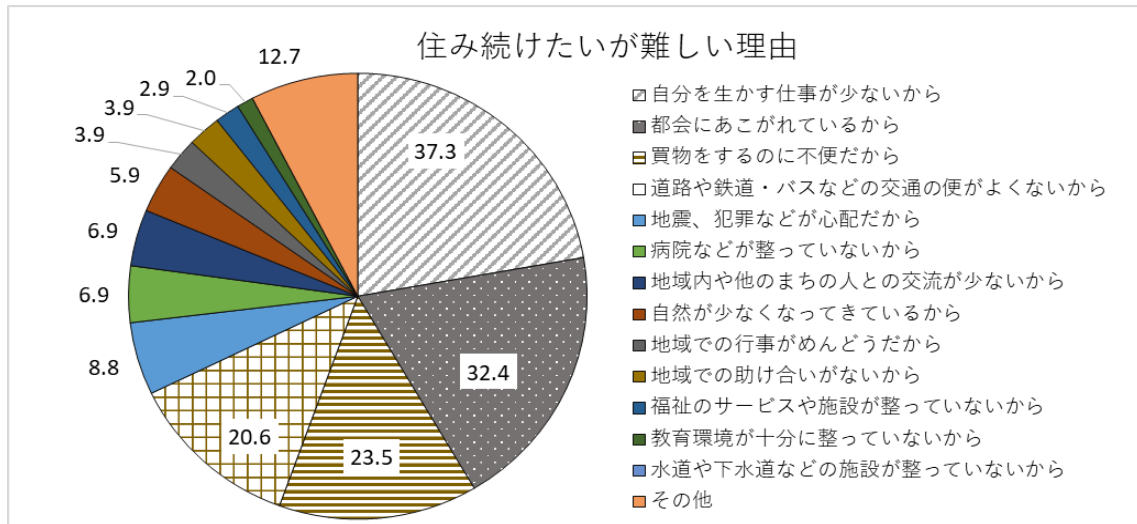
●住みたくない理由は、「都会にあこがれているから」「自分を生かす仕事が少ないから」「買物をするのに不便だから」

「住み続けたいが難しい」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」と回答した258人にその理由をたずねたところ、「都会にあこがれているから」が38.8%と最も高く、次いで、「自分を生かす仕事が少ないから」(34.1%)、「買物をするのに不便だから」(29.8%)、「道路や鉄道・バスなどの交通の便がよくないから」(20.5%)となっており、この4項目で理由の大半を占めています。

「住み続けたいが難しい」「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」と回答した人のみ・全体・今回/複数回答



また、「住み続けたいが難しい」と回答された102人の理由として、「自分を生かす仕事が少ないから」、「都会にあこがれているから」、「買物をするのに不便だから」、「道路や鉄道・バスなどの交通の便がよくないから」の4項目で大部分を占めています。



(5) 館林市で自慢できるもの

問5 館林市であなたが自慢できるものは何ですか。物でも人でも場所でも何でもかまいません。2つ以内で具体的に書いてください。

館林市で自慢できることについて自由記述方式でたずねたところ 1,016 件が記入されています。

「つつじ」に関することが 224 件と最も多く、次いで、「自然・緑（植物）」に関すること（168 件）、「施設」に関すること（82 件）、「祭・イベント」に関すること（79 件）、「暑さ」に関すること（73 件）、となっています。

また、単独のワードでは、[ツツジ]が 105 件と最も多く、次いで[つつじが岡公園]（77 件）、[向井千秋]（30 件）、[館林まつり]（23 件）、[暑い]（23 件）でした。

意 見	件 数
〈つつじ〉に関すること ツツジ。きれいなツツジ。つつじが岡公園。つつじが岡公園がきれい。等	224
〈自然・緑（植物）〉に関すること 自然がたくさんある。沼などに鴨や白鳥がいる。緑が豊か。等	168
〈施設〉に関すること 館林駅。館林城。市民プール。城沼体育館。美術館。病院などの施設がいっぱいある。遊ぶところが多く公園が多い。等	82
〈祭・イベント〉に関すること 館林祭り、館林祭りやだる市、七夕祭りなどの行事が楽しい。鯉のぼり祭り。地域の体育大会。麺-1グランプリ等	79
〈暑さ〉に関すること 暑い。日本の中で館林市の暑さが最高気温上位だからそれなりの対策知識などが学べる気温が高くなるわりに、熱中症で倒れたり亡くなったりする人が少ない。等	73
〈食品・飲食店〉に関すること 館林うどん。焼きまんじゅう。花山うどん。うどんが美味しい。飲食店が多い。等	62
〈人物〉に関すること 向井千秋。上皇后のゆかりの地。大谷休泊。榊原康政。田山花袋。田中正造。等	60
〈物品〉に関すること 鯉のぼり。ぽんちゃん。分福茶釜。館林かるた等	60
〈交流・やさしさ〉に関すること いろいろな人との交流がたくさんある。公園などで会った人と気軽に声を掛けてお話しができる。地域の人たちが優しい。優しい大人がいっぱいいる。等	45
〈その他〉 災害が少ない。事故などが少ない。治安がよい。野菜がとても美味しい。交通の便が良く買い物にもほとんど困らない。高速道路や電車、バスなど交通の便がよい。都会より人が少ないからお店が空いている。市内での企画がしっかりしている。他	163
計	1,016

5 今後のまちづくりについて

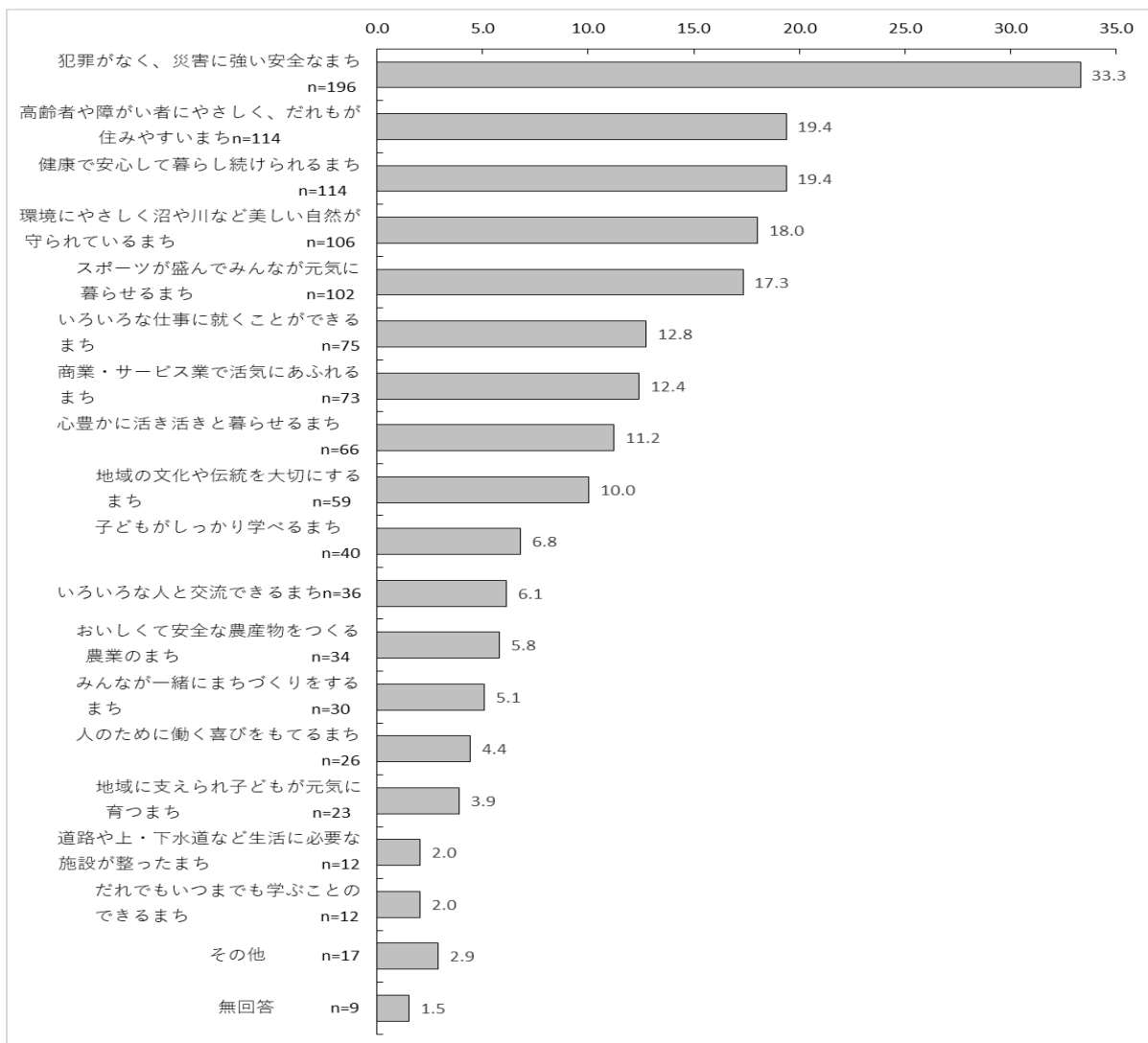
(1) 今後のまちづくりについて

問6 あなたは、今後、館林市をどのようなまちにしたいと思いますか。(2つまで○印)

【全体の傾向】

●「安全なまち」「住みやすいまち」「安心して暮らし続けられるまち」の回答が多い

今後のまちづくりについてたずねたところ、「犯罪がなく、災害に強い安全なまち」が33.3%と最も高く、次いで、「高齢者や障害者にやさしく、だれもが住みやすいまち」と「健康で安心して暮らし続けられるまち」が同率で19.4%、「環境にやさしく沼や川など美しい自然が守られているまち」(18.0%)、「スポーツが盛んでみんなが元気に暮らせるまち」(17.3%)の順となっています。



【属性別の傾向】

性別にみると、男子は、「スポーツが盛んでみんなが元気に暮らせるまち」(22.1%)が2番目に高く、「高齢者や障害者にやさしく、だれもが住みやすいまち」(18.6%)が4番目となっています。女子は、上位3項目は全体と同じで、「スポーツが盛んでみんなが元気に暮らせるまち」(11.3%)が8番目となっています。

愛着度別にみると、「愛着を感じていない」ひとは、「心豊かに生き活きと暮らせるまち」(28.6%)がトップになっています。また、“愛着がない”ひとは、「いろいろな仕事に就くことができるまち」を2番目に多く回答しています。

定住意向別にみると、「住みたくない」ひとは、「いろいろな仕事に就くことができるまち」(35.5%)がトップになっています。また、“定住希望がある”人に比べ、「住み続けたいが難しい」・“定住希望がない”人では、「いろいろな仕事に就くことができるまち」と「商業・サービス業で活気にあふれるまち」への回答が多くなっています。

今後のまちづくりについて①

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位
全体		犯罪がなく、災害に強い安全なまち 33.3%	高齢者や障害者にやさしく、だれもが住みやすいまち 19.4%	健康で安心して暮らし続けられるまち 19.4%
性別	男子	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 32.8%	スポーツが盛んでみんなが元気に暮らせるまち 22.1%	健康で安心して暮らし続けられるまち 19.9%
	女子	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 33.2%	高齢者や障害者にやさしく、だれもが住みやすいまち 20.8%	健康で安心して暮らし続けられるまち 18.9%

今後のまちづくりについて②

〈上位3位〉

		第1位	第2位	第3位
愛着度別	愛着を感じている	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 35.4%	高齢者や障害者にやさしく、だれもが住みやすいまち 21.7%	健康で安心して暮らし続けられるまち 21.7%
	愛着をやや感じている	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 33.1%	健康で安心して暮らし続けられるまち 20.1%	スポーツが盛んでみんなが元気に暮らせるまち 18.5%
	愛着をあまり感じていない	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 33.2%	いろいろな仕事に就くことができるまち 20.8%	高齢者や障害者にやさしく、だれもが住みやすいまち 18.9%
	愛着を感じていない	心豊かに生き活きと暮らせるまち 28.6%	犯罪がなく、災害に強い安全なまち／高齢者や障害者にやさしく、だれもが住みやすいまち／いろいろな仕事に就くことができるまち 23.8%	
定住意向別	住み続けたい	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 38.2%	健康で安心して暮らし続けられるまち 21.3%	環境にやさしく沼や川など美しい自然が守られているまち 19.1%
	どちらかといえば住み続けたい	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 31.4%	高齢者や障害者にやさしく、だれもが住みやすいまち 26.8%	健康で安心して暮らし続けられるまち 23.8%
	住み続けたいが難しい	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 40.2%	健康で安心して暮らし続けられるまち／いろいろな仕事に就くことができるまち 18.6%	
	どちらかといえば住みたくない	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 28.8%	商業・サービス業で活気にあふれるまち 22.4%	環境にやさしく沼や川など美しい自然が守られているまち／いろいろな仕事に就くことができるまち 20.0%
	住みたくない	いろいろな仕事に就くことができるまち 35.5%	犯罪がなく、災害に強い安全なまち 25.8%	商業・サービス業で活気にあふれるまち 16.1%

(2) まちづくりに関する行政への要望や意見

問7 これからあなたやみんなのためのまちづくりを進めていくうえで、館林市に対する要望や意見などを書いてください。

市に望むことや意見などについて自由記入方式でたずねたところ、702件の意見が寄せられました。「店舗」に関することが146件と最も多く、次いで、「施設」に関すること(89件)、「道路」に関すること(77件)、「美化」に関すること(60件)、「スポーツ」に関すること(44件)の順となっています。

まちづくりを進めていくうえでの要望・意見

意見	件数
〈店舗〉に関すること イオンやゲームセンターなどの大きなお店を増やす。コンビニ。等	146
〈施設〉に関すること 学校などの施設で雨漏りの修理。室内屋外とも子どもの集まれる場。いろいろな施設を無料に。等	89
〈道路〉に関すること 道路が砂利道多く整備された道。信号がなく事故が多い場所に信号を。等	77
〈美化〉に関すること 館林市はゴミが多いので何とかしてほしい。城沼は本来きれいな場所なので、美化を進めた方がよい。等	60
〈スポーツ〉に関すること サッカーグラウンド・テニスコート・バスケットコート・サイクリングコース。館林市全員のスポーツ大会。等	44
〈自然〉に関すること 自然豊かな場所はそのまま大切に守り続けてほしいが、もう少し発展して遊べるところや買い物ができるところは増やしてほしい。等	36
〈行事〉に関すること もっと館林市市民がみんなで楽しめる行事。鯉のぼりをもっとダイナミックに飾る。静かなのはいいがイベントが少ない。等	30
〈PR〉に関すること 茂林寺をもっと有名な場所に。話題になるようなイベントをして、もっといいところをアピールする。等	24
〈まち〉に関すること 障がいのある方や生活が困難な人でも健康で安全に生きられるまち。今の館林市はとてもしみやすいから建物を壊して住みづらいまちにしないしてほしい。等	23
〈暑い〉に関すること 暑さ対策を住宅地にも。夏の暑さを活かして何かを作してほしい。等	22
〈その他〉 交通に関して15件、交流に関して10件、緑に関して9件、ルールに関して8件他	151
計	702

(3) まちづくりを進めていくうえで自分や市民ができること

問8 これからあなたやみんなのためのまちづくりを進めていくうえで、自分や市民ができると思うことを書いてください。

まちづくりを進めていく上で自分や市民にできることについて自由記入方式でたずねたところ、449件の意見が寄せられました。「清掃・美化」に関することが131件と最も多く、次いで、「ボランティア」に関すること（88件）、「自然保護・環境」に関すること（56件）、「行事・交流」に関すること（40件）「やさしさ・助け合い」に関すること（37件）の順となっています。

まちづくりを進めていくうえで自分や市民ができること

意見	件数
〈清掃・美化〉に関すること ゴミのポイ捨てをしない。ゴミ拾い。ゴミの分別。雑草などを抜く。地域清掃。等	131
〈ボランティア〉に関すること つつじの子房摘み。ボランティアに積極的に取り組む。学校の取組としてボランティア活動がしたい。等	88
〈自然保護・環境〉に関すること 豊かな自然を守っていく。環境破壊をしないよう3Rを守る。グリーンカーテンなどの取り組み。等	56
〈行事・交流〉に関すること 行事などにいろいろ参加して、館林市の良さをもっと知る。地域でいろいろな人と交流していく。お祭りなどを大切にする。等	40
〈やさしさ・助け合い〉に関すること 相手のことを思って普段生活をする。高齢者や障がい者に優しくする。男女差別をしないで楽しく元気に過ごす。等	37
〈挨拶〉に関すること 近所の人などに積極的にあいさつをする。みんなが出会った人にあいさつをする。互いに協力し合い礼儀正しい地域にしていく。等	22
〈募金〉に関すること 募金。緑を増やすための募金。等	20
〈選挙・発言〉に関すること 選挙。いい人に投票する。いろいろな意見を市に言って改善してもらおう。等	10
〈その他〉 つつじが岡公園を清潔にして観光客を増やす。文化や伝統を大切にする。犯罪をしない。市の政策に市民がもっと関与できればよい。暑さ対策。中学生や小学生が活躍することが大事。税金を納める。地域の野菜を買う。有名人になる。頑張る。等	45
計	449

全体のまとめについて

(1) 市民アンケートのまとめ

館林市に愛着がある割合が8割を超え、定住希望も7割弱で、居住年数が長いほどその率は、高くなっています。

館林市に不足しているものは税・公共料金の負担が大きいことで、生活環境分野には満足していますが、快適・環境分野には、不満があるようです。

将来のまちづくりに関しては、安心・安全・住みやすいまちにしたいとの回答が多い。

自助・共助に関しては、7割前後が重要と考え、約6割が担いたいと考えています。

協働のまちづくりを推進する上では、市民との情報共有・市民参加、そして、その意見の範囲が重要視されています。

地域が主体となって取り組む活動は、災害時の声かけなどの支援活動等、祭りや親睦行事等、美化活動、資源回収、清掃活動等で、地域の活動をより活発にするには、地域イベントの開催となっています。

(2) 中学生アンケートのまとめ

館林市のイメージとして、地域の伝統が大切にされている事や、農業が盛んである事、心も体も健康で暮らすことができる等が高評価であり、愛着度が8割を超えており定住希望も約6割となっています。しかし一方で、買い物のしやすさや、交通の便などの評価が低くなっています。

館林市の自慢できることは、つつじ、向井千秋、館林祭り、暑い等で、まちづくりを進めていくうえで自分や市民にできることとして、有名人になるや、頑張るが記入されていました。

将来のまちづくりに関しては、安心・安全・住みやすいまちにしたいとの回答が多い中、行政への要望は、店舗・施設の充実が多くなっています。

(3) むすびにあたって

愛着があり、定住希望が多くある中、安心・安全の推進と利便性の向上が求められています。